

# **Autodesk® Data Management Server 5**

## **アドバンス コンフィギュレーション ガイド**

# 目次

はじめに .....	1
Autodesk Data Management Server 5 のインストール .....	1
ドメイン コントローラへのインストール.....	1
Autodesk Data Management Server 5 のインストールのカスタマイズ .....	2
別の Web サーバ ポートへ Autodesk Data Management Server をインストール.....	2
ADMS 5 をインストールする前に MS SQL Server をインストール .....	11
リモート ファイル保管場所の管理 .....	13
ファイル保管場所を割り当てられたドライブまたはリモート共有に移動する.....	14
新しいドメインユーザ アカウントの作成 .....	14
リモート共有の作成 .....	14
Vault Manager での新しいアカウントの設定 .....	14
ボールド ファイル保管場所の移動.....	14
IIS のワーカー プロセスとアプリケーション プールの再設定 .....	15
リモート ファイル保管場所でのコンテンツ インデックスの作成.....	15
FQDN を使用したリモートの Vault/Productstream 接続の設定 .....	16
ADMS 5 から完全版 SQL Server へのアップグレード.....	17
MSDE から MS SQL 2000 Server へのアップグレード .....	18
MSDE から Microsoft SQL 2005 Express へのアップグレード .....	21
MS SQL 2005 Express から完全版 MS SQL Server 2005 へのアップグレード .....	22
SQL メンテナンス プランの作成 .....	27
ボールドに追加されるファイルの最大ファイル サイズ制限を増やす方法 .....	34
ADMS サーバでのタイムアウト値を増やす方法 .....	35
SSL を使用した Autodesk Data Management Server の実行.....	36
DM Server マシンの設定 .....	36
SSL アクセスを必要とするように AutodeskDM 仮想ディレクトリを設定する .....	37
クライアント マシンの設定.....	37
解決策 1 - CA ルート証明書を、クライアント マシン上の信頼されたルート証明機関ストアに追加する.....	38
解決策 2 - 証明書の有効期限を調べる.....	41
解決策 3 - 証明書名とサイト名が一致することを確認する .....	41
SSL を使用したクライアント アプリケーションからのログイン .....	41
プロキシ サーバでのボールドの使用 .....	42

## アドバンス コンフィギュレーション ガイド

Internet Explorer 6.x でのプロキシ設定の変更 .....	42
ホスト名を使用するようにプロキシ サーバを設定する .....	42
Autodesk Data Management Server のログ ファイル .....	43
Autodesk Data Management Server (ADMS) 5 のインストール ログ ファイル .....	43
Vault サーバのログ ファイル .....	44
Microsoft SQL Server のログ ファイル .....	44
DWG および DWF の iFilter のログ ファイル .....	44
インデックス作成ブロック属性(DWG ファイル) .....	45

## はじめに

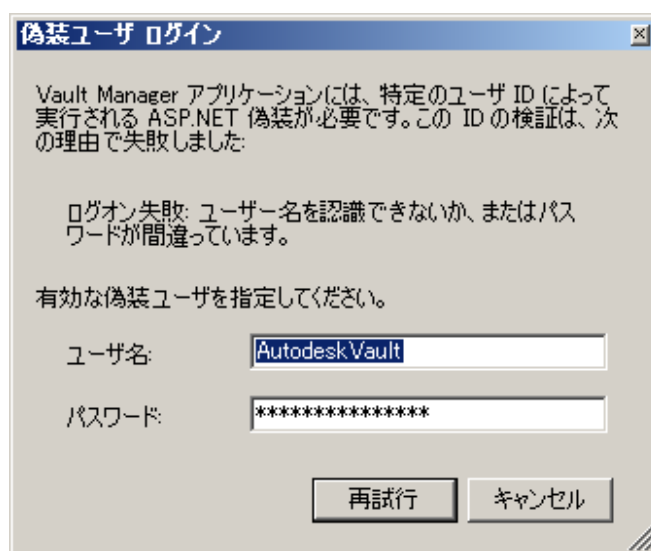
この『アドバンス コンフィギュレーション ガイド』には、Autodesk® Data Management Server 5 (ADMS) のセットアップに関する補足情報が記載されています。このガイドで説明している内容は Autodesk Data Management Server に関連するものであり、Autodesk Vault 5 と Autodesk Productstream 5 のどちらのインストールの場合にも適用できます。これらは高度な設定に関するものであるため、ある程度 IT 関連の手順に慣れていることが前提となります。詳細については、『Autodesk Data Management Server 5 構築ガイド』および『データ管理ガイド』を参照してください。

## Autodesk Data Management Server 5 のインストール

標準的なインストール設定については、『Autodesk Data Management Server 5 構築ガイド』および『データ管理ガイド』を参照してください。

### ドメイン コントローラへのインストール

ADMS は専用のサーバにインストールすることをお勧めしますが、ドメイン コントローラにインストールする場合は、次のダイアログ ボックスで偽装アカウントの入力を求められることがあります。



[ユーザ名]フィールドに `ドメイン名\AutodeskVault` と入力します。[パスワード]フィールドのエントリは変更または削除しないでください。ドメインでパスワード ポリシーが有効になっている場合、AutodeskVault ユーザ アカウントのパスワードのリセットが必要になることがあります。[Active Directory ユーザとコンピュータ]を開き、AutodeskVault アカウントを探します。アカウントを右クリックし、[リセットパスワード]を選択します。パスワード ポリシーを満たす新しいパスワードを入力し、そのパスワードを[偽装ユーザ ログイン]ダイアログ ボックスに入力します。

## Autodesk Data Management Server 5 のインストールのカスタマイズ

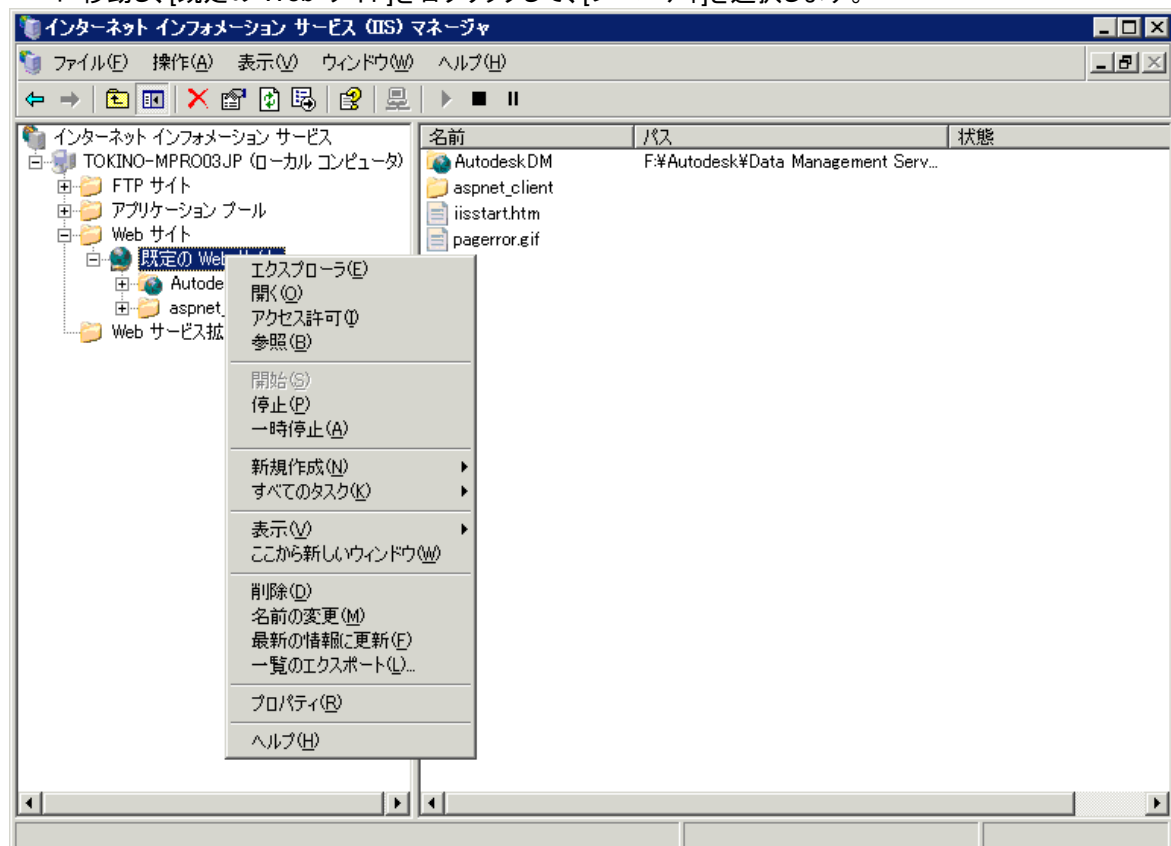
インストール中に既定値のインストール パスを変更するには、以下の手順に従います。

1. オートデスク ソフトウェア使用許諾契約書の内容に同意し、[次へ]をクリックします。
2. [インストール オプション]ページで、[オプション]の横にある[Autodesk Data Management Server]リンクをクリックします。
3. [インストール先フォルダ]ダイアログ ボックスで、[参照...]ボタンを押します。
4. Autodesk Data Management Server のプログラム ファイルの場所を指定します。
5. [次へ]をクリックしてインストールを開始します。

## 別の Web サーバポートへ Autodesk Data Management Server をインストール

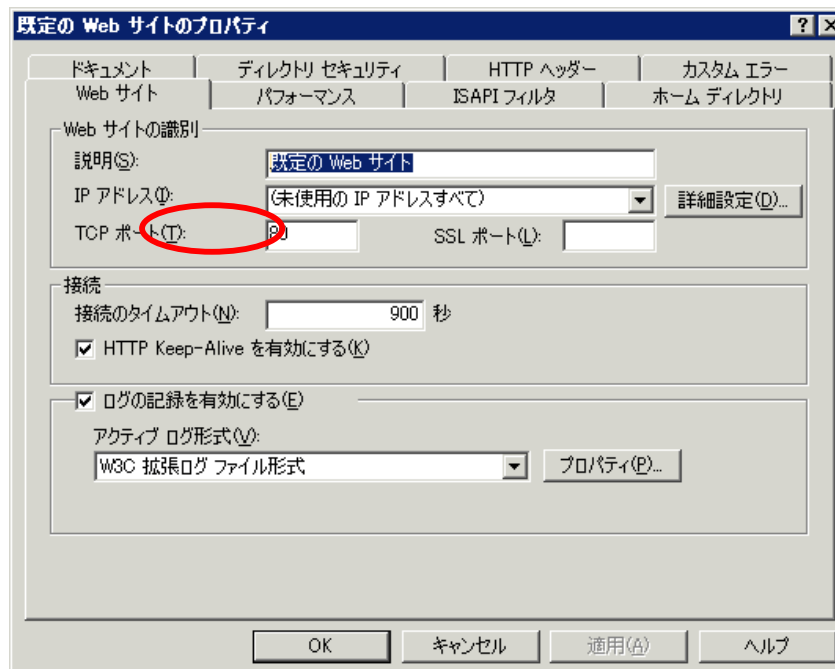
通常 Autodesk Data Management ソフトウェアは、既定値の Web サイト上にある他の Web アプリケーションと共存します。しかし、アプリケーションによっては Web サイトへの排他的アクセスを必要とするものがあります。ここでは、競合を避けるために Data Management ソフトウェアを別のポートおよびサイトにインストールする方法について説明します。以下の手順では Microsoft Windows 2003 サーバソフトウェアがベースとなっています。Microsoft Windows 2000 サーバのユーザも同様の操作を実行できる可能性がありますが、画面の内容の一部が異なります。

1. コントロール パネルの[管理ツール]にある[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ]に移動し、[既定の Web サイト]を右クリックして、[プロパティ]を選択します。

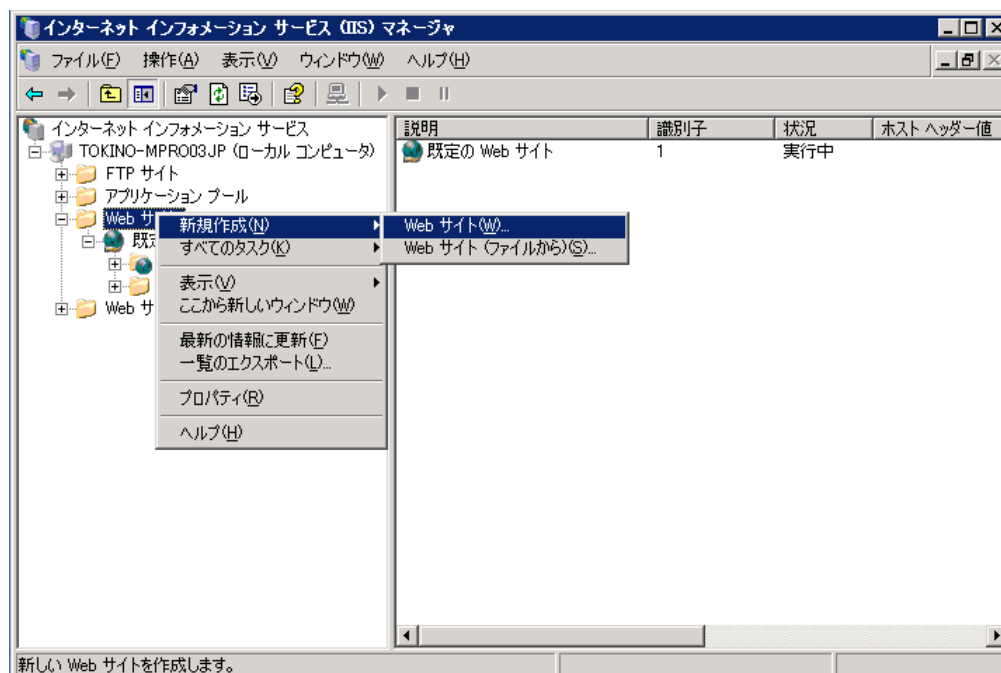


2. 既存の既定の Web サイトを別のポート(たとえば、8080)で実行するように、一時的に変更します。

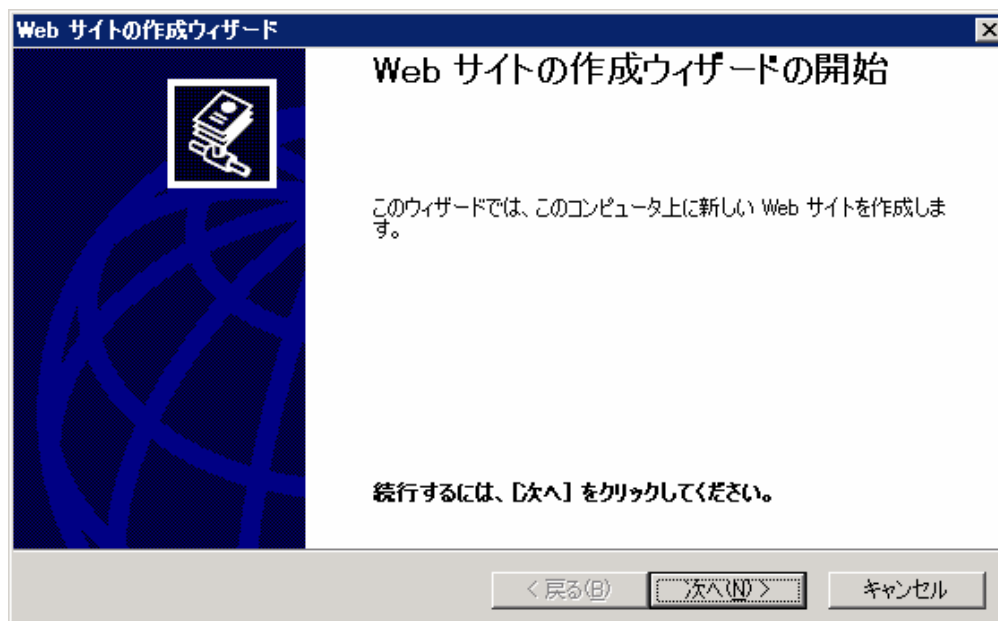
## アドバンス コンフィギュレーション ガイド



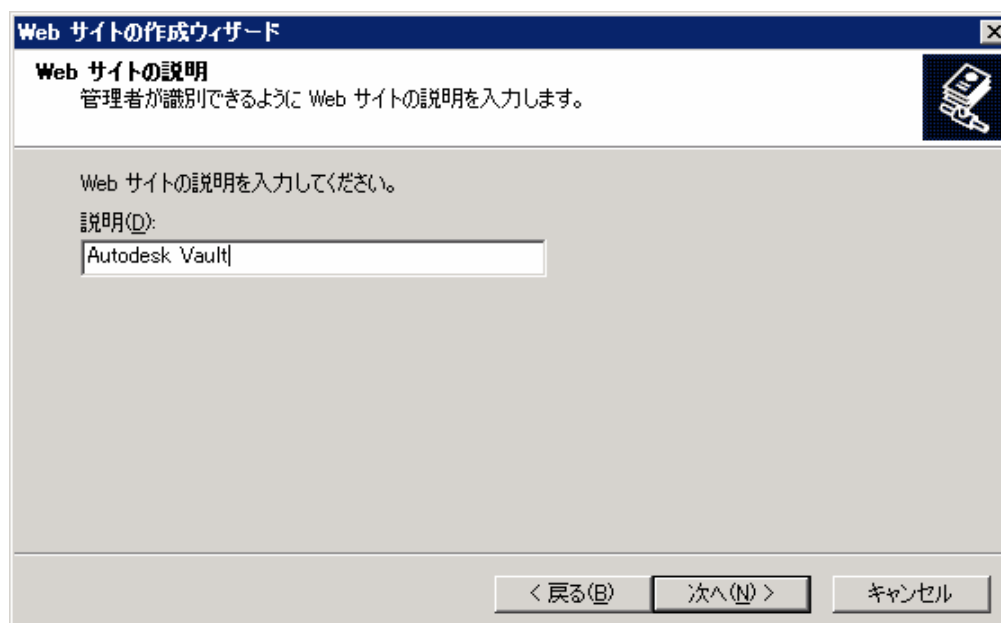
3. [Web サイト] フォルダを右クリックし、[Web サイト]を選択して新しい Web サイトを作成します。



4. このウィザードを利用して、Autodesk DM 製品用の新しい Web サイトを作成します。



5. [説明]フィールドに Autodesk Vault と入力します。



6. 既定値では、ボールド インストーラはポート 80 でサイトを検索します。既定値の設定である 80 を使用します。

**Web サイトの作成ウィザード**

**IP アドレスとポートの設定**  
新しい Web サイトの IP アドレス、ポート設定、およびホスト ヘッダーを指定します。

この Web サイトで使用する IP アドレスを入力してください(E):  
[未使用の IP アドレスすべて]

この Web サイトが使用する TCP ポート (既定値: 80)(T):  
80 ← **デフォルトのポート80 を指定します。この値は後ほど変更します。**

この Web サイトのホスト ヘッダー (既定値: なし)(H):  
[ ]

詳細については、IIS のドキュメントをお読みください。

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

7. この Web サイトの実際のディレクトリと場所は重要ではありません。空のディレクトリを作成して使用します。

**Web サイトの作成ウィザード**

**Web サイト ホーム ディレクトリ**  
ホーム ディレクトリは Web コンテンツのサブディレクトリのルートです。

ホーム ディレクトリのパスを入力してください。

パス(P):  
C:\VaultWebsite    参照(R)...

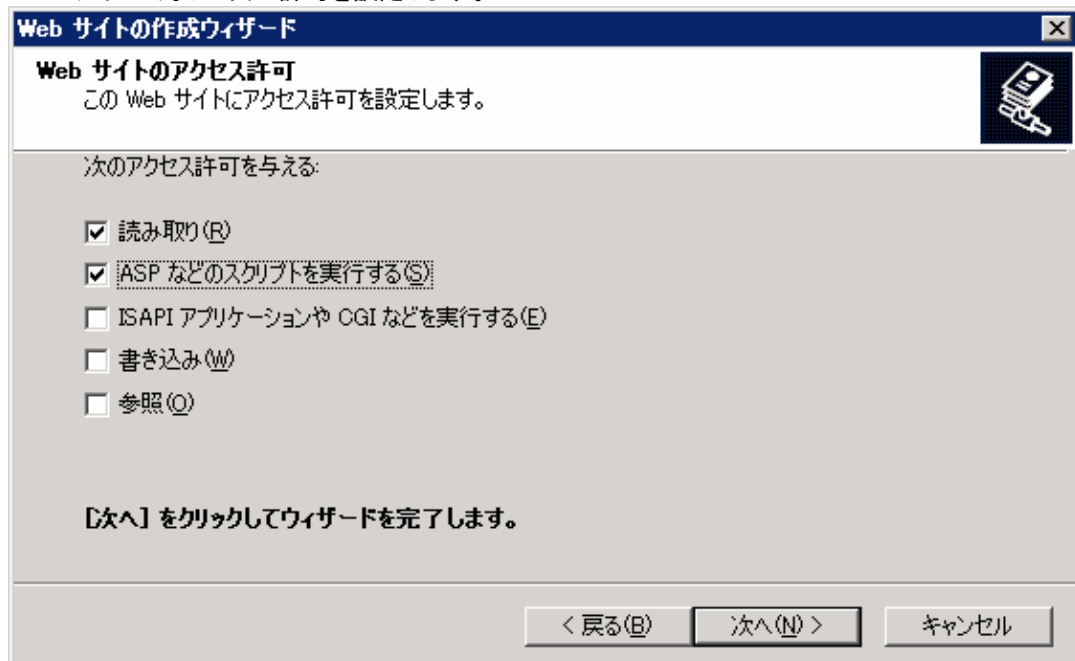
☒ この Web サイトへの匿名アクセスを許可する(A)

**空のディレクトリを指定します。**

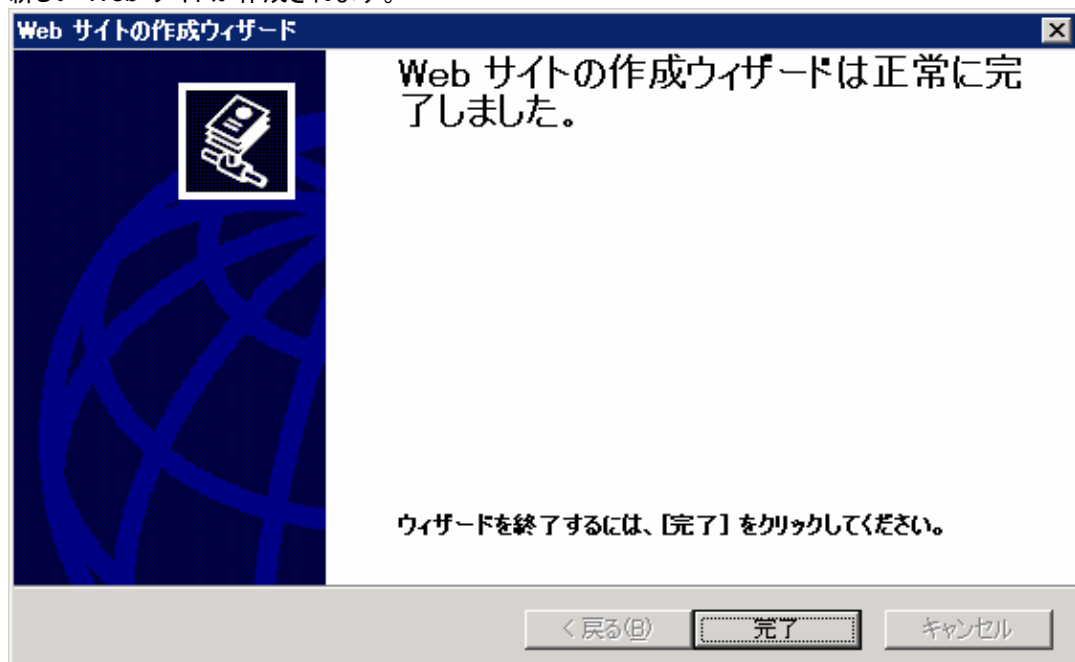
< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル



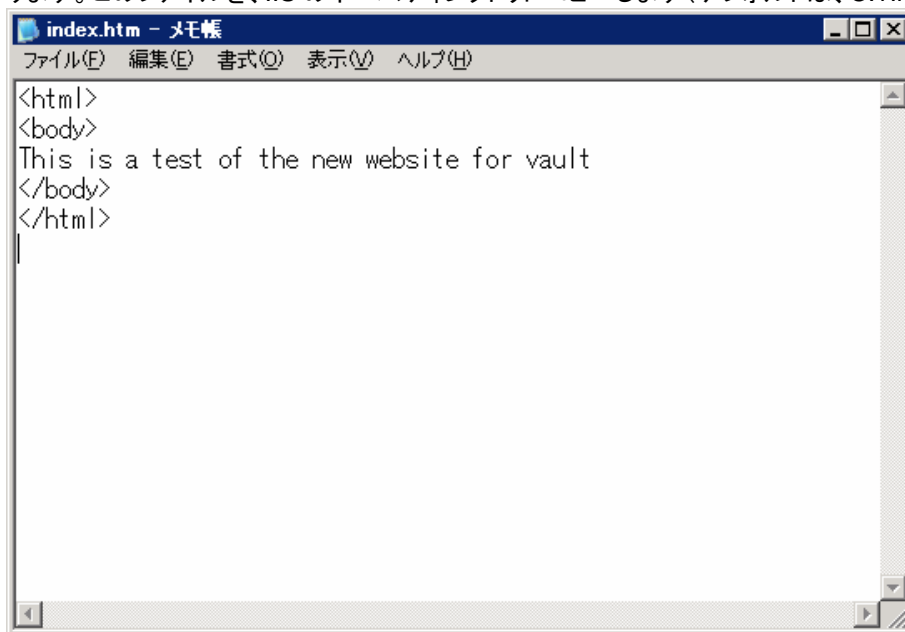
8. Web サイトに対して次の許可を設定します。



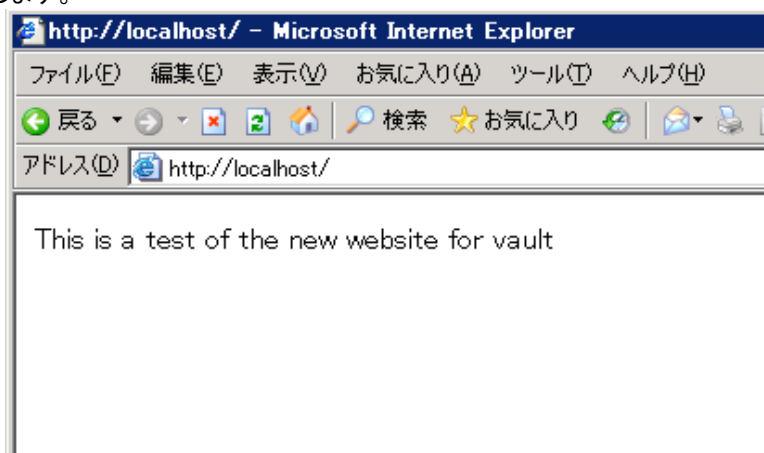
9. 新しい Web サイトが作成されます。



10. メモ帳などのテキスト エディタを使用して、簡単な html ファイルを作成します。ADMS Server インストーラでいくつかの事前チェックに合格するために、新しい Web サイトでファイルを作成することが必要になります。このファイルを、IIS のホームディレクトリにコピーします (デフォルトは、C:\inetpub\wwwroot)。

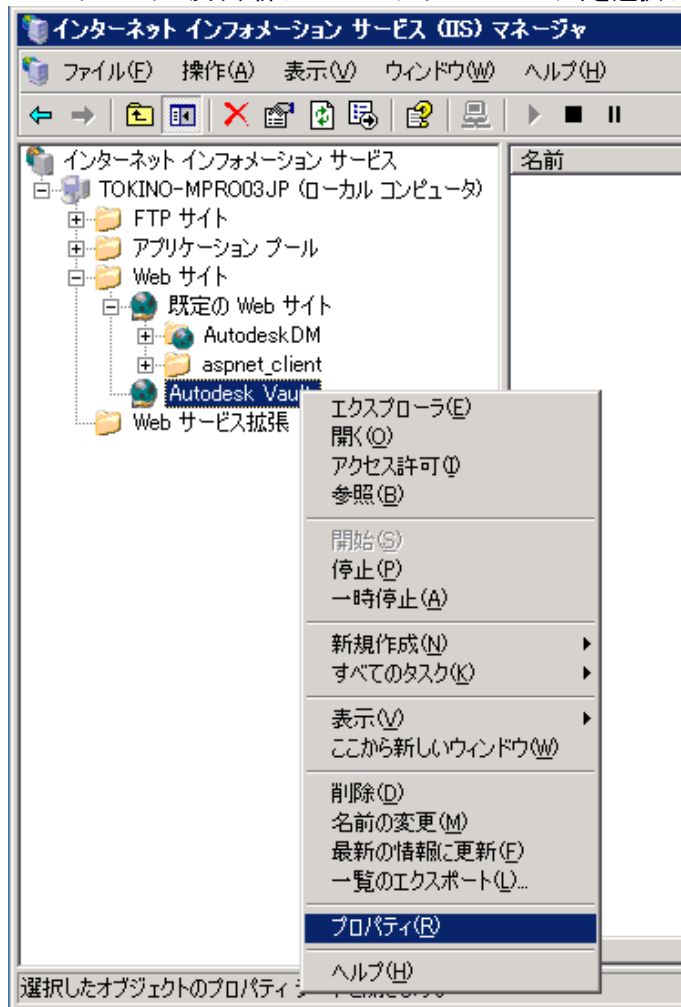


11. Internet Explorer を開き、[アドレス]フィールドに <http://localhost> と入力し、新しい Web サイトが動作することを確認します。

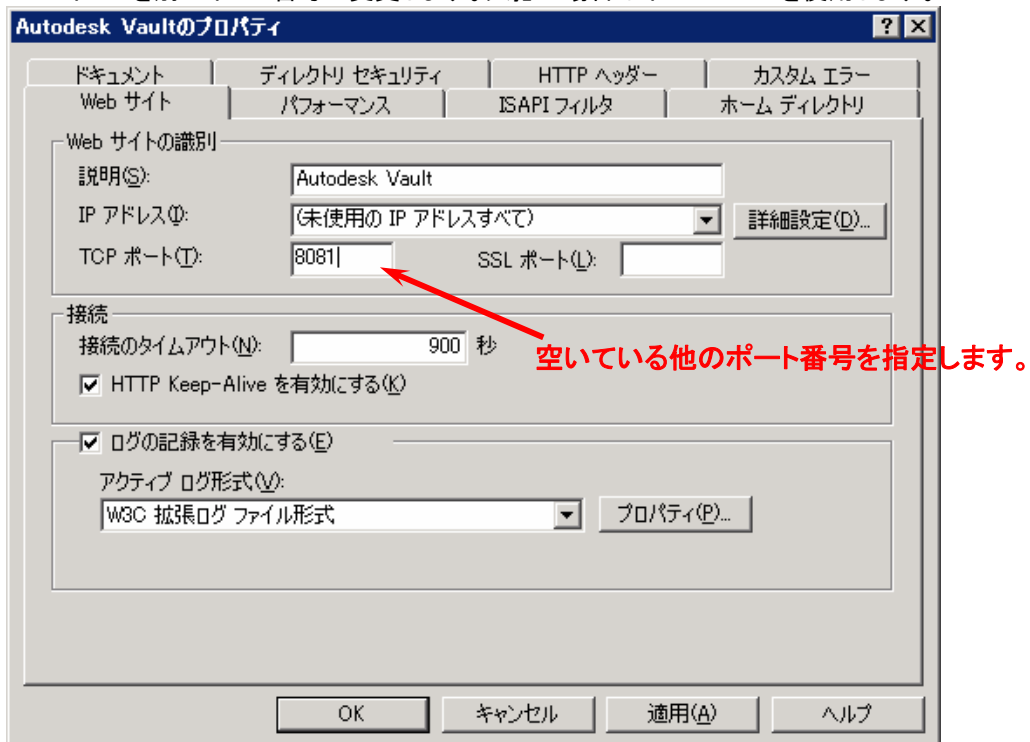


12. Microsoft .Net Framework v1.1.4322 を、新しい Web サイトに関連付けるように設定します。これには、コマンド プロンプトからコマンド ライン ユーティリティを実行します。[スタート]メニューから[すべてのプログラム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト]の順に選択します。%SystemRoot%\Microsoft.Net\Framework\v1.1.4322 ディレクトリに移動します。コマンド プロンプトで aspnet\_regiis.exe -ir と入力します。
13. ADMS サーバのインストールを開始し、事前チェックでエラーが報告された場合はそれらのエラーを修正します。
14. インストールが完了したら、ポータルにログインします。

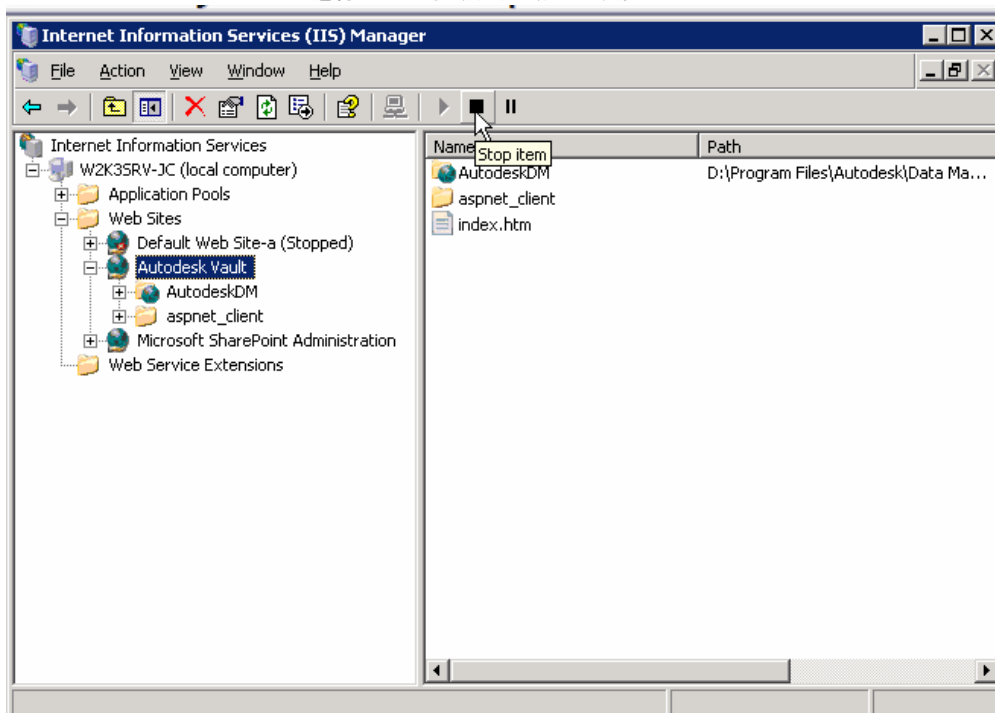
15. IIS マネージャに戻り、新しい Web サイトのプロパティを選択します。



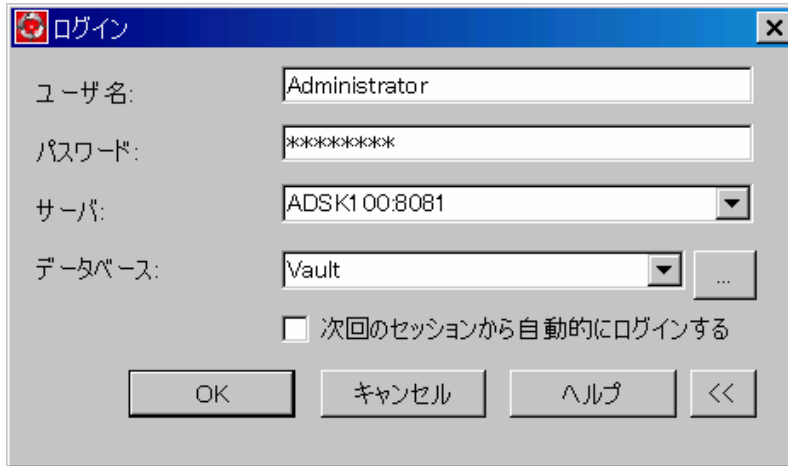
16. TCP ポートを別のポート番号に変更します。大抵の場合はポート 8081 を使用します。



17. Autodesk Vault Web サイトを停止した後、再起動します。



18. ボールトにアクセスするユーザは、新しいポート番号を「ホスト名:ポート番号」の形式で[サーバ] フィールドに追加する必要があります。



19. 元の[既定の Web サイト]のプロパティを開きます。[TCP ポート]を 80 に設定して戻した後、Web サイトを停止して再起動します。
20. Windows エクスプローラを開き、C:\Program Files\Autodesk\Data Management Server 5\Vault Manager ディレクトリに移動します。
21. Connectivity.VaultManager.exe.Config ファイルのコピーを作成します。
22. コピーした Connectivity.VaultManager.exe.Config ファイルをメモ帳で開きます。
23. <add key="PORT" value="80" /> という行を探します。この値を、ボールト Web サイトに対して設定したポート番号に変更します。

## ADMS 5 をインストールする前に MS SQL Server をインストール

Autodesk Data Management Server 5 では、すでにインストールされている Microsoft SQL の既存の AutodeskVault インスタンスを検出できない場合に、Microsoft SQL Desktop Engine (MSDE)版の SQL がインストールされます。後でアップグレードを実行しなくても済むように、ADMS 5 をインストールする前に、Microsoft SQL 2000 Standard Edition と SP4、Microsoft SQL 2000 Enterprise Edition と SP4、Microsoft SQL 2005 Workgroup、Microsoft SQL 2005 Standard Edition、または Microsoft SQL 2005 Enterprise Edition をインストールできます。

注: このインストール処理では、サーバを複数回リブートすることが必要になる場合があります。必要なリブートを実行できることを確認してください。

Microsoft SQL 2000 の場合は次の手順を実行します。

1. Microsoft SQL 2000 Server のインストール処理を開始します。
2. インストールに含める他のコンポーネントまたはツールを選択します。
3. インストール中、プログラムとデータベース ファイルの場所は、異なったハードディスク ドライブに指定するカスタマイズができます。  
  
注: 但しこの製品バージョンでは、データベース ファイルをトランザクション ログ ファイルと異なったフォルダに分離することはサポートされていません。
4. サービス アカウント情報を入力するよう求められます。ローカル システム アカウントを使用できます。リモートの場所へのバックアップと復元を実行する場合は、ドメインユーザ アカウントを使用してください。
5. [認証モード]ダイアログ ボックスで、[混在モード]を選択します。
6. sa ログイン パスワードを “AutodeskVault” に設定します。このパスワードは大文字と小文字が区別されます。
7. [インスタンス名]ダイアログ ボックスで、[既定値]チェック ボックスをオフにし、インスタンス名を “AutodeskVault” にします。

Microsoft SQL 2005 の場合は次の手順を実行します。

1. Microsoft SQL 2005 Server のインストール処理を開始します。
2. このインストール処理では、事前に必要なものがすべてインストールされ、インストール前チェックの実行が開始されます。エラーが発生した場合はそれらを控えておき、必要な修正を施してから作業を進めてください。
3. [インストールするコンポーネント]ダイアログ ボックスで、[SQL Server データベース サービス]を選択します。インストール パスを変更する場合は、[詳細設定]をクリックします。
  - a. [機能の選択]ダイアログ ボックスでは、[データベース サービス]オプションを展開してデータ ファイル ディレクトリの場所を変更できます。
4. [インスタンス名]ダイアログ ボックスで、インスタンスの名前として “AutodeskVault” と入力します。
5. [サービス アカウント]ダイアログ ボックスで、ローカル システム アカウントを指定します。または、リモートの場所へのバックアップと復元を実行する場合は、SQL Server のドメインユーザ アカウントを指定します。
6. [認証モード]ダイアログ ボックスで、[混在モード]認証を選択し、sa パスワードを “AutodeskVault” に設定します。このパスワードは大文字と小文字が区別されます。

注: パスワード ポリシーを適用している場合は、ポリシーに従ったパスワードを使用する必要があります。インストールが完了したら、sa パスワードを“AutodeskVault” にリセットし、[パスワード ポリシーを適用する]チェック ボックスをオフにします。また、VaultSys という名前の SQL ログイン アカウントを作成する必要があります。このアカウントを作成するには、次の手順を実行します。

1. Microsoft SQL Server Management Studio を開きます。
2. [セキュリティ]、[ログイン]をフォルダを展開します。
3. [ログイン]フォルダを右クリックし、[新しいログイン]を選択します。
4. ログイン名として“VaultSys” と入力します。
5. [SQL Server 認証]を選択します。
6. パスワードに“superman” と入力します。
7. [パスワード ポリシーを適用する]のチェックボックスをオフにします。

ログイン - 新規作成

ページの選択

- 全般
- サーバー ロール
- ユーザー マッピング
- セキュリティ保護可能なリソース
- 状態

スクリプト ヘルプ

ログイン名(L): VaultSys 検索(E)...

☐ Windows 認証(W)

☒ SQL Server 認証(S)

パスワード(P): \*\*\*\*\*

パスワードの確認入力(C): \*\*\*\*\*

☐ パスワード ポリシーを適用する(P)

☐ パスワードの期限を適用する(O)

☐ ユーザーが次回ログイン時にパスワードを変更する(U)

☐ 証明書にマップ済み

証明書名(I):

☐ 非対称キーにマップ済み

キー名(K):

既定のデータベース(D): master

既定の言語(A): <既定>

接続

サーバー: TOKINO-MPRO2K.JP#autodesk\

接続: TOKINO-MPRO2K.JP#inouem

[接続のプロパティを表示します](#)

進行状況

準備完了

OK キャンセル

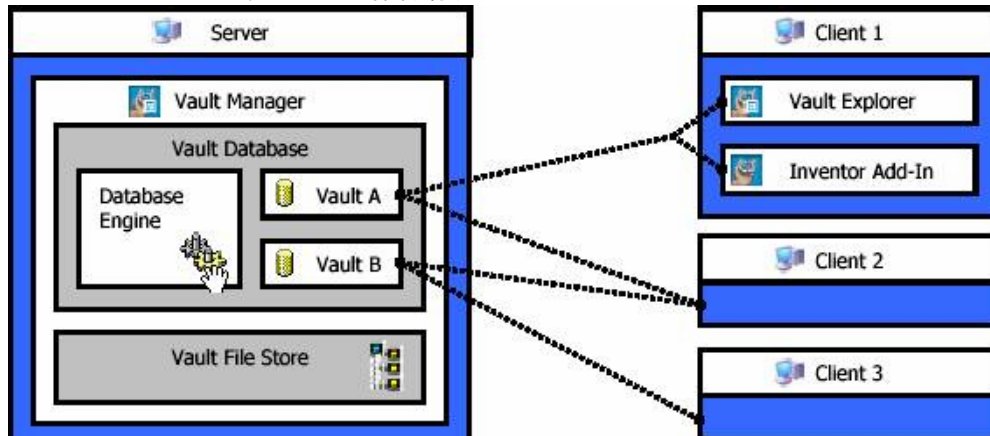
8. [サーバー ロール]ページを選択します。
9. 次の各ロールの横にあるボックスをオンにします。
  - dbcreator
  - processadmin
  - setupadmin
10. [OK]をクリックしてアカウントを作成します。

## リモート ファイル保管場所の管理

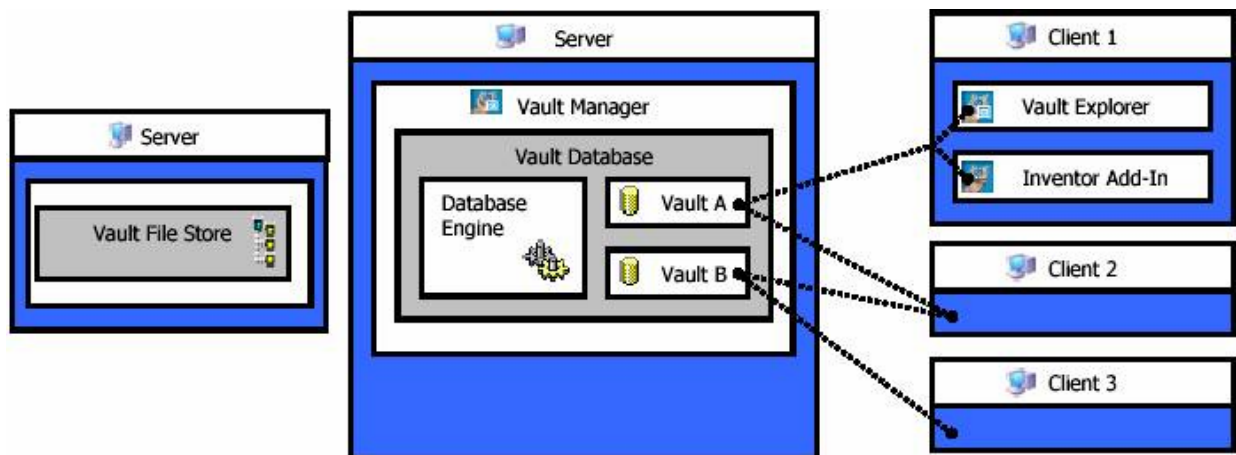
ファイル保管場所を、割り当てられたドライブまたはリモートの共有場所に移動するには、次の手順を実行します。

ボールドでは 2 つの基本的なファイル保管場所構成がサポートされています。

### 1. ボールド サーバ上にあるファイル保管場所



### 2. 共有フォルダを持つリモート ファイル サーバ上にあるファイル保管場所



### 3. リモート ファイル サーバは、ファイル保管場所のホストとして使用できるほか、ボールド データのバックアップと復元にも使用できます。このセクションでは、リモート ファイル保管場所の設定に必要な手順について説明します。



## ファイル保管場所を割り当てられたドライブまたはリモート共有に移動する

ここでは簡単にするため、Autodesk Data Management Server をホストするコンピュータを **DMMachine** と呼び、リモート ファイル保管場所をホストするコンピュータを **FSMachine** と呼びます。

### 新しいドメインユーザ アカウントの作成

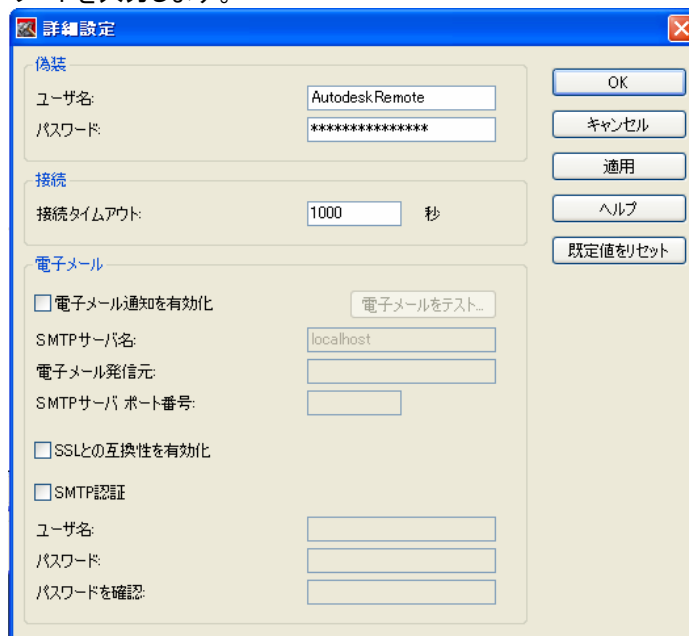
1. [Active Directory ユーザーとコンピュータ]を開き、組織単位 (OU) を選択してアカウントを作成します。
2. AutodeskRemote という名前のアカウントを作成します。パスワードを、ドメイン パスワード ポリシーに適合するように設定し、期限切れがないように設定します。

### リモート共有の作成

1. FSMachine で Windows エクスプローラを開き、VaultData という名前のディレクトリを作成します。
2. フォルダを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
3. [共有]タブに移動し、VaultData という名前の新しい共有を作成します。
4. [アクセス許可]をクリックし、[Everyone]グループを[フル コントロール]に設定します。
5. [共有]ダイアログ ボックスの[アクセス許可]で[OK]をクリックします。
6. [セキュリティ]タブに移動し、AutodeskRemote アカウントを追加して、[フル コントロール]のアクセス許可をそのアカウントに設定します。

### Vault Manager での新しいアカウントの設定

1. DMMachine で、Vault Manager を開きます。
2. [ファイル]メニューから、[Web サービスの停止]を選択します。
3. [ツール] > [詳細設定]を選択します。
4. [詳細設定]ダイアログ ボックスで、[ユーザ名]を AutodeskRemote に変更し、選択したパスワードを入力します。



5. 変更を適用し、[OK]をクリックします。

### ボールド ファイル保管場所の移動

1. 別の場所に移動するボールドを選択します。

2. [アクション] > [ファイル保管場所の移動]を選択します。
3. [新しいファイル保管場所]フィールドを [¥¥FSMachine¥VaultData](#) に設定します。
4. [OK]をクリックします。

## IIS のワーカー プロセスとアプリケーション プールの再設定

1. [Active Directory ユーザとコンピュータ]を開き、組織単位 (OU) を選択してアカウントを作成します。
2. AutodeskID という名前のアカウントを作成します。パスワードを、ドメイン パスワード ポリシーに適合するように設定します。
3. AutodeskID アカウントを IIS\_WP ローカル グループのメンバーにします。
4. AutodeskID アカウントに、%SystemRoot%\¥Temp ディレクトリへの[フル コントロール]アクセス権を許可します。
5. AutodeskID アカウントに、[¥¥FSMachine¥VaultData](#) リモート ファイル保管場所ディレクトリへの[フル コントロール]アクセス権を許可します。
6. インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャを開き、AutodeskAppPL という名前の新しいアプリケーション プールを作成します。
7. AutodeskAppPL アプリケーション プールのプロパティを開き、[識別]タブに移動します。
8. ドメイン アカウント AutodeskID を追加し、パスワードを設定して変更を適用します。
9. [既定の Web サイト]を展開し、[AutodeskDM]-[Services] 仮想ディレクトリに移動します。
10. [Services] ディレクトリを右クリックし、[ディレクトリ]タブに移動します。
11. [アプリケーション プール]プルダウンを、新しく作成した AutodeskAppPL アプリケーション プールに変更します。
12. 変更を適用し、[既定の Web サイト]のプロパティを閉じます。
13. IIS マネージャを閉じます。
14. IIS を再起動します。
15. 新しいファイルをポールトに追加し、プロパティのインデックスを作成できることを確認します。

## リモート ファイル保管場所でのコンテンツ インデックスの作成

ネットワーク環境によっては、リモート ファイル保管場所でのコンテンツ インデックス サービスの実行に使用されるアカウントを変更しなければならない場合があります。

1. ADMS サーバがインストールされているサーバで、コントロール パネルから[管理ツール]を開き、[コンピュータの管理]をダブルクリックします。
2. [コンピュータの管理]ダイアログ ボックスで、[サービスとアプリケーション]をダブルクリックします。
3. [インデックス サービス]フォルダを開きます。
4. ADMS で始まるカタログがあります。このフォルダを展開し、[ディレクトリ]サブフォルダを開きます。
5. リモート ファイル保管場所ディレクトリが[ディレクトリ]列の一覧に表示されます。一覧に表示されない場合は、他の ADMS カタログで正しいリモート ファイル保管場所ディレクトリを探します。
6. ディレクトリをダブルクリックします。
7. [ディレクトリの追加]ダイアログ ボックスで、AutodeskRemote ユーザ アカウントを入力し、パスワードを[パスワード]フィールドに入力します。
8. [OK]をクリックします。

## FQDN を使用したリモートの Vault/Productstream 接続の設定

完全修飾ドメイン名(FQDN)を使用したインターネット経由でのリモート接続を許可するように Vault または Productstream™ サーバを設定するには、次の手順を実行します。

1. 現在の FQDN と ISP に対する、DNS "A" またはホスト レコードを作成します。
2. Autodesk Vault Server または Autodesk Productstream Server をサーバにインストールし、正常に動作することを確認します。
3. サーバで、インターネット インフォメーション サービス マネージャを開き、[既存の Web サイト]フォルダを展開します。
4. AutodeskDM 仮想ディレクトリのある Web サイトを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
5. [プロパティ]ダイアログ ボックスで、[Web サイト]タブをクリックします。
6. [Web サイト]タブで、[詳細設定...]をクリックします。
7. [Web サイト ID の詳細設定]ダイアログ ボックスの[この Web サイトの複数の ID]で、[追加...]をクリックします。
8. [Web サイトの識別の追加と編集]ダイアログ ボックスで、Web サイトとやり取りする正しい IP アドレスを選択します。
9. 使用する TCP ポートを入力します。ポート 80 以外を使用する場合は、接続が機能するように、各クライアントで FQDN の末尾に ":<ポート番号>" を追加する必要があります。
10. [ホスト ヘッダー値]に、FQDN を入力します。
11. [OK]をクリックして各ダイアログ ボックスを閉じます。

**注:** ルータやファイアウォールでさらに設定が必要になる場合があります。必要な変更については IT 部署に問い合わせてください。

## ADMS 5 から完全版 SQL Server へのアップグレード

完全版の Microsoft SQL Server へのアップグレードを行う際は、サーバおよびクライアント システムへのアクセスを許可したり、定期的なシステム再起動を許可するのに必要となる、適切な IT 担当者または技術担当者が確保できることが前提となります。また、実稼動環境でアップグレードを実行する前にテスト環境でアップグレードを実行することをお勧めします。アップグレードが正常に実行されたことを確認するためには、クライアント側のシステムが必要になります。

サーバのアップグレードは、Autodesk Data Management Server のインストール後にいつでも実行できます。アップグレード処理中は、サーバを 1 ～ 2 回リブートしなければならない場合があります。

アップグレード中、SQL サーバ インスタンスと Autodesk Vault Server サービスはシャットダウンされます。アップグレード中にボールドにログインしているユーザはすべて、自動的に切断されます。すべてのユーザが Autodesk Data Management Server からログアウトしていることを確かめてください。アップグレードによってチェックアウト済みのファイルの状態が影響を受けることはなく、データベース構造、ファイルの状態、または親子関係が変更されることもありません。

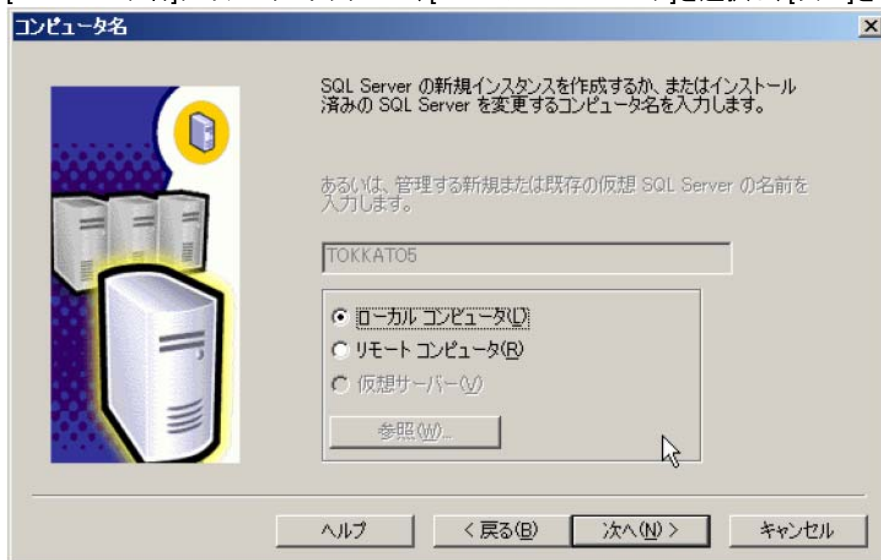
SQL サーバのアップグレードを行う前に、Vault Manager アプリケーションからバックアップを実行してください。データのバックアップの詳細については、Autodesk Vault Manager のヘルプを参照してください。

## MSDE から MS SQL 2000 Server へのアップグレード

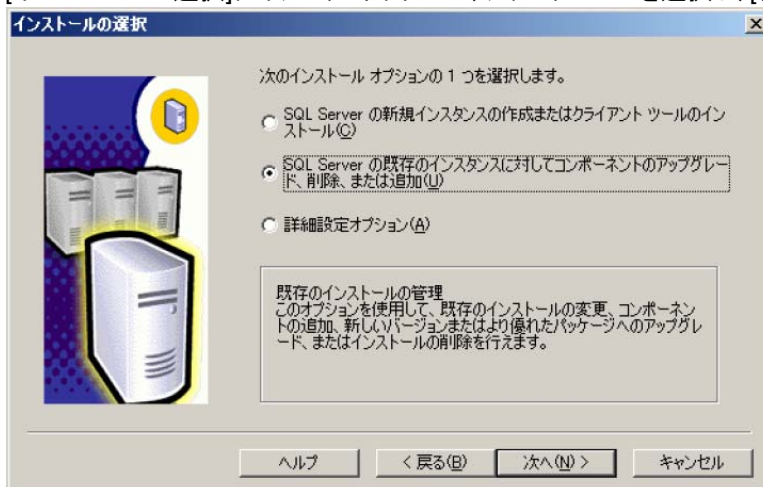
1. MS SQL 2000 のインストール CD から、インストーラを起動します。
2. インストーラで、[SQL Server 2000 コンポーネント]を選択します。



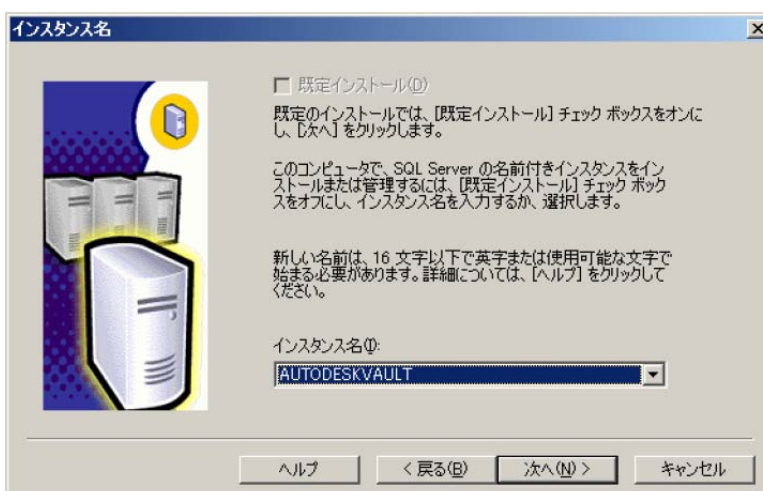
3. [コンピュータ名]ダイアログ ボックスで、[ローカル コンピュータ]を選択し、[次へ]をクリックします。



4. [インストールの選択]ダイアログ ボックスで、アップグレードを選択し、[次へ]をクリックします。



5. [インスタンス名]ダイアログ ボックスで、[既定インストール]チェック ボックスをオフにします。これで、[インスタンス名]ドロップダウン リストが使用可能になります。インスタンス名を入力するか、リストから選択できます。ドロップダウン リストが使用可能にならない場合や、MSSQL\$AUTODESKVAULT インスタンスが表示されない場合は、使用している Microsoft Windows Operating System のバージョンで SQL Server 2000 Edition がサポートされていません。



6. [次へ]をクリックします。

## アドバンス コンフィギュレーション ガイド

MSDE 2000 は、SQL Server 2000 Standard Edition/Enterprise Edition、および MS SQL 2005 Express Edition/Workgroup Edition にのみアップグレードできます。

次のオペレーティング システムでは MSDE から SQL Server へのアップグレードはサポートされていません。

- Windows Server 2003 Web Edition
- Windows XP Professional Edition (SQL Server 2000 エディション)
- Windows XP Home Edition
- Windows 2000 Professional
- Windows NT 4.0 Workstation
- Microsoft Windows Millennium Edition
- Microsoft Windows 98
- Microsoft Windows CE

次のオペレーティング システムでは MSDE から SQL Server へのアップグレードがサポートされています。

- Windows Server 2003, Standard Edition
- Windows Server 2003, Enterprise Edition
- Windows Server 2003, Datacenter Edition
- Windows 2000 Server
- Windows 2000 Advanced Server
- Windows 2000 Datacenter Server
- Windows XP Professional Edition (SQL Server 2005 エディション)

**注:** Autodesk Data Management Server 5 では、アップグレードを行う前に、Service Pack 4 以降を SQL Server 2000 のすべてのエディションに適用する必要があります。

## MSDE から Microsoft SQL 2005 Express へのアップグレード

MSDE エディションを MS SQL 2005 Express にアップグレードする場合は、アップグレード インストールが Autodesk Inventor 11 Series および Professional、Productstream Creator/Reviewer 5 の各インストール ディスクで提供されています。アップグレード フォルダは次のパスにあります。

Autodesk Inventor Series 11 ディスク: <ドライブ>:\bin\acadfeui\UpgradeSQL2005

Autodesk Inventor Profession 11 ディスク: <ドライブ>:\bin\acadfeui\UpgradeSQL2005

Autodesk Productstream 5 ディスク 2: <ドライブ>:\bin\acadfeui\UpgradeSQL2005

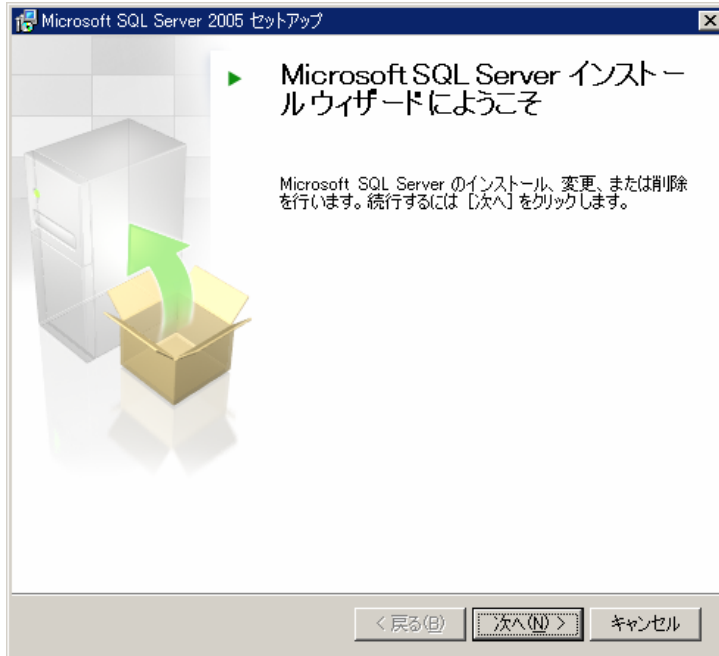
Civil 3D 2007、3DS Max 8、AutoCAD Electrical 2007 などの他のアプリケーションの場合は、MS SQL Express を Microsoft の Web サイトからダウンロードして次の手順を実行する必要があります。

1. アップグレードを実行する前に、必ず Vault Manager アプリケーションを使用してバックアップを実行します。バックアップ中は Web サービスが停止し、どのユーザもサーバに接続できなくなります。
2. バックアップが完了したら、Vault Manager を閉じます。Web サービスは再起動しないでください。
3. サーバで Microsoft SQL 2005 Express Edition のインストールを開始します。
4. インストール中、現在の SQL インスタンスをアップグレードするかどうかをたずねられます。[インスタンス]ラジオ ボタンを選択し、ドロップダウン リストから[AutodeskVault]を選択します。
5. 残りの質問に対しては既定値のオプションを選択し、アップグレードを実行します。
6. アップグレードの完了後、Windows エクスプローラを開き、  
<インストール ディレクトリ>\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\MSSQL\Install ディレクトリに移動します。instmsdb.sql ファイルをダブルクリックし、SQL Management Studio で開きます。
7. AutodeskVault インスタンスにログインし、データベースでスクリプトを実行します。スクリプトが完了すると Management Studio を閉じることができ、アップグレードが完了します。
8. Vault Manager を開いてログインします。
9. Vault Manager から別のバックアップを実行します。
10. バックアップが完了したら、[ファイル]メニューから Web サービスを開始します。するとクライアント コンピュータから、ADMS サーバに接続できるようになります。

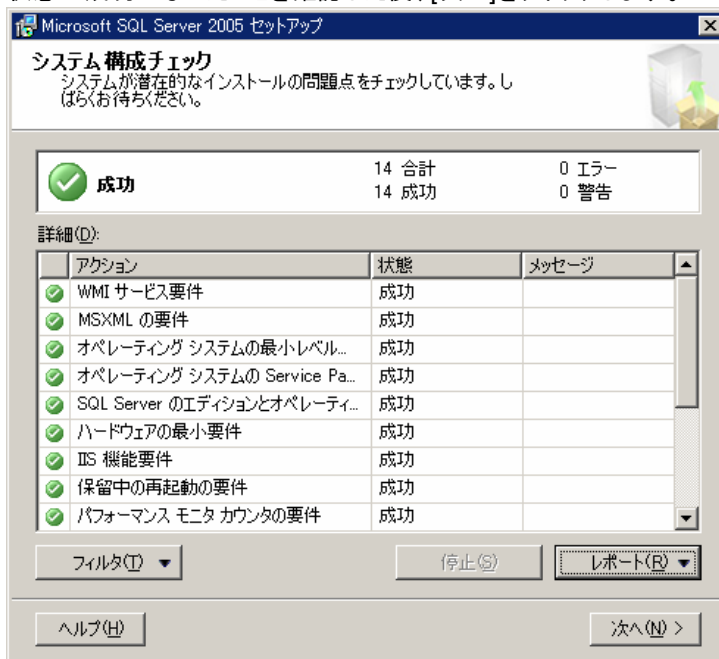


## MS SQL 2005 Express から完全版 MS SQL Server 2005 へのアップグレード

1. MS SQL Server 2005 のインストール ディスクをドライブに挿入し、インストール ウィザードを開始します。事前に必要なものが先にインストールされた後、インストール処理が開始されます。

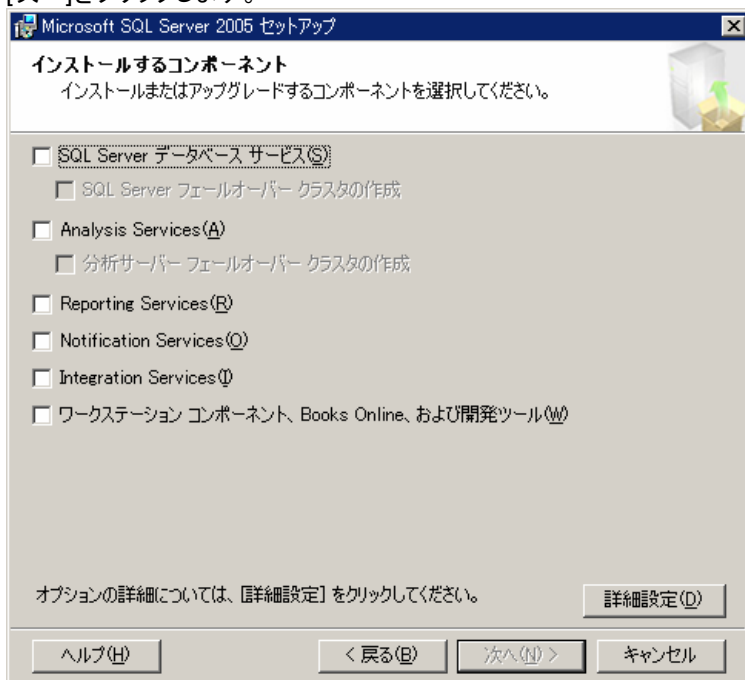


2. [次へ]をクリックします。ウィザードによってシステム構成のチェックが実行されます。すべてのチェックの状態が成功になったことを確認した後、[次へ]をクリックします。

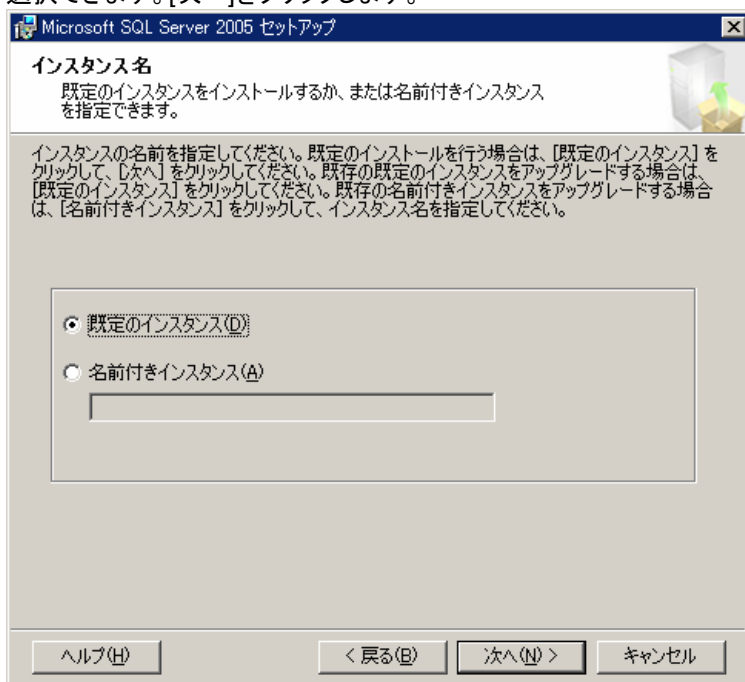


## アドバンス コンフィギュレーション ガイド

3. [インストールするコンポーネント]ダイアログ ボックスで、[SQL Server データベース サービス]を選択し、[次へ]をクリックします。

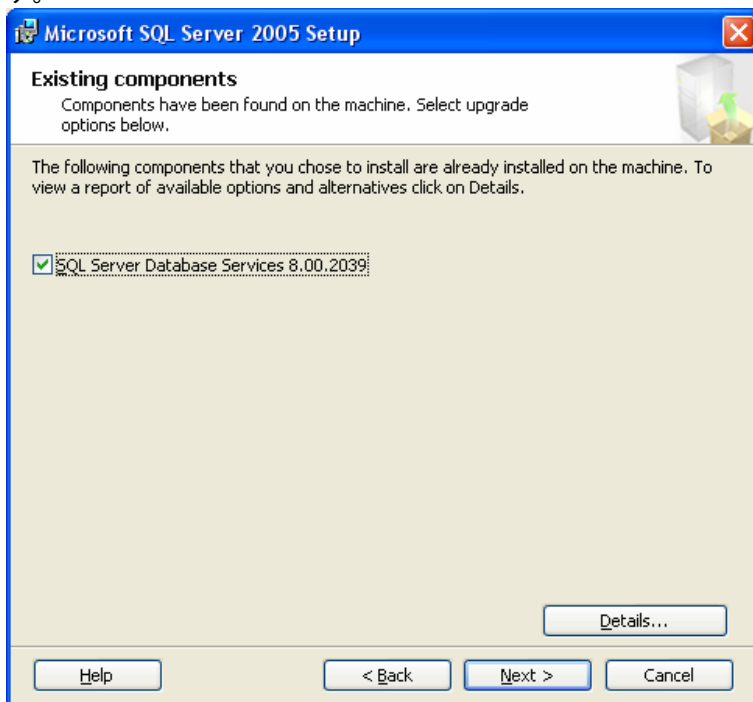


4. [インスタンス名]ダイアログ ボックスで、[名前付きインスタンス]ラジオ ボタンを選択して AutodeskVault と入力します。または、[インストールされたインスタンス]ボタンを選択して AutodeskVault インスタンスを選択できます。[次へ]をクリックします。

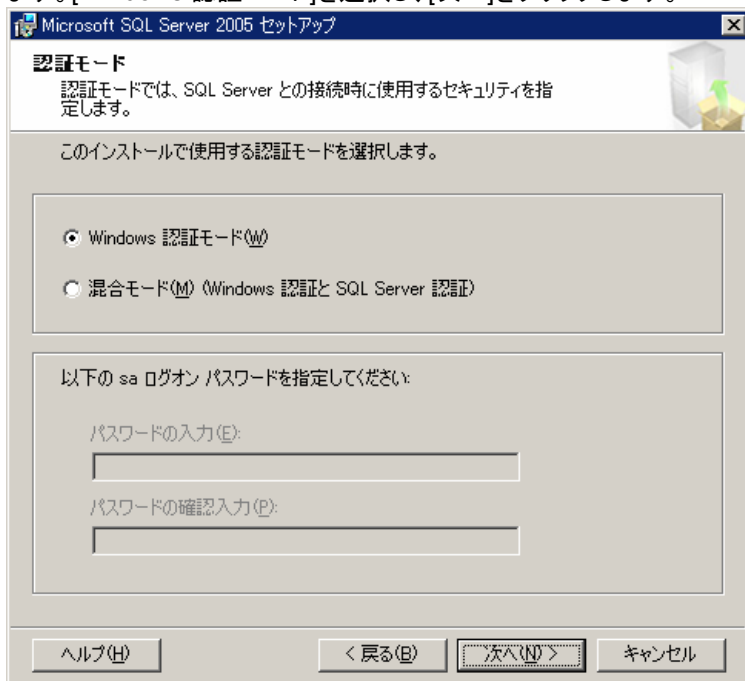


## アドバンス コンフィギュレーション ガイド

5. [既存のコンポーネント]ダイアログ ボックスに、アップグレードする SQL Server データベース サービス が一覧表示されます。SQL Server データベースの横にあるボックスをオンにし、[次へ]をクリックします。



6. [ログイン情報のアップグレード]ダイアログ ボックスで、アップグレードの実行に使用するアカウントを指定するよう求められます。サーバのローカル管理者権限を持つアカウントでログインしている必要があります。[Windows 認証モード]を選択し、[次へ]をクリックします。



## アドバンス コンフィギュレーション ガイド

7. [サービス アカウント]ダイアログ ボックスで、組込みのシステム アカウント、またはSQL Browser を実行するドメイン ユーザ アカウントのいずれかを選択します。[次へ]をクリックします。

Microsoft SQL Server 2005 セットアップ

**サービス アカウント**  
ログインするアカウントは、サービス アカウントによって定義されます。

☐ サービス アカウントごとにカスタマイズする(Q)  
サービス(E):

☒ ビルトイン システム アカウントを使用する(Y) ローカル システム

☐ ドメイン ユーザ アカウントを使用する(R)  
ユーザー名(U):  
パスワード(P):  
ドメイン(D):

セットアップ終了時にサービスを開始する

☒ SQL Server(S) ☒ Reporting Services(Q)  
☐ SQL Server エージェント(G) ☐ SQL Browser(W)  
☒ Analysis Services(A)

ヘルプ(H) < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. [エラーと使用状況レポートの設定]ダイアログ ボックスで、オプションの設定が表示されますが、これらは Autodesk では必要ありません。

Microsoft SQL Server 2005 セットアップ

**エラーと使用状況レポートの設定**  
Microsoft が SQL Server 2005 のコンポーネントやサービスを強化するのを支援します。

☐ SQL Server 2005 のエラー レポートを Microsoft または企業内のエラー報告サーバーに自動的に送信します。エラー レポートには、エラーが発生したときの SQL Server 2005 の状態、ハードウェア構成、およびその他のデータに関する情報が含まれます。エラー レポートには、意図せず個人情報が含まれる可能性があります。Microsoft ではこのような個人情報を使用しません(A)

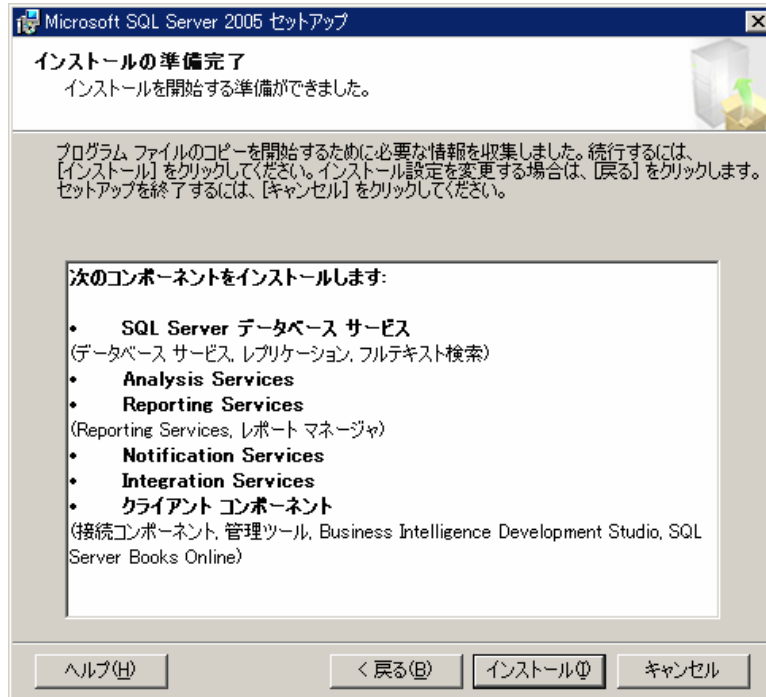
☐ SQL Server 2005 の機能の使用状況データを Microsoft に自動的に送信します。使用状況データには、ハードウェアの構成や、ソフトウェアやサービスをどのように使用しているかに関する匿名の情報が含まれます(E)

エラー報告機能および送信する情報の種類に関する詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

ヘルプ(H) < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

## アドバンス コンフィギュレーション ガイド

9. [インストールの準備完了]ダイアログ ボックスで、[インストール]をクリックしてアップグレード処理を開始します。

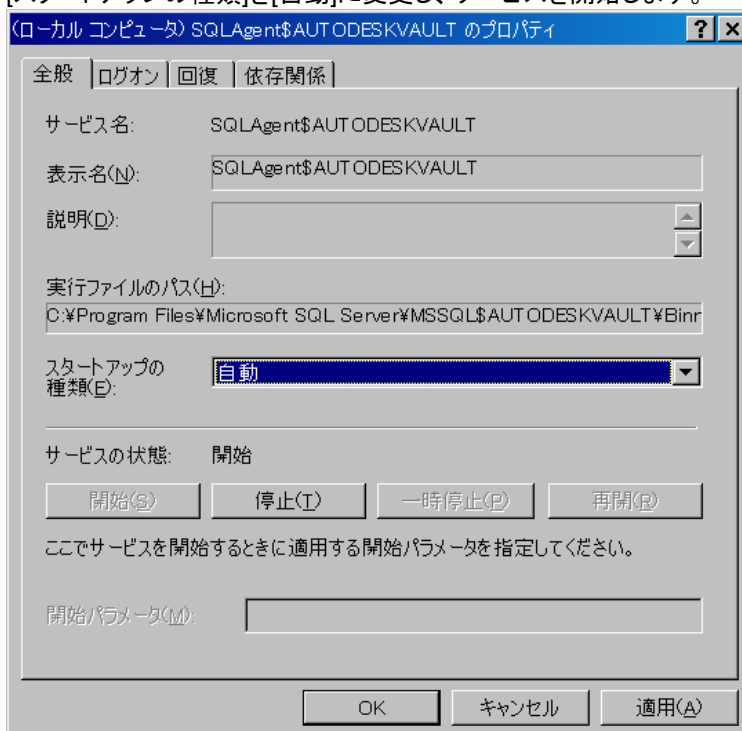


## SQL メンテナンス プランの作成

メンテナンス プランを使用すると、データベースが適切に実行されていることを確かめるのに必要なメンテナンス作業のスケジュールを設定できます。メンテナンス作業には、データベースとトランザクション ログ ファイルのサイズを小さく維持する、データベースの不一致がないかチェックする、などがあります。

ここではあくまで一例を示すものであり、SQL Server に関する質問などは、SQL Server のヘルプや Microsoft 社のサポートにお問合せください。

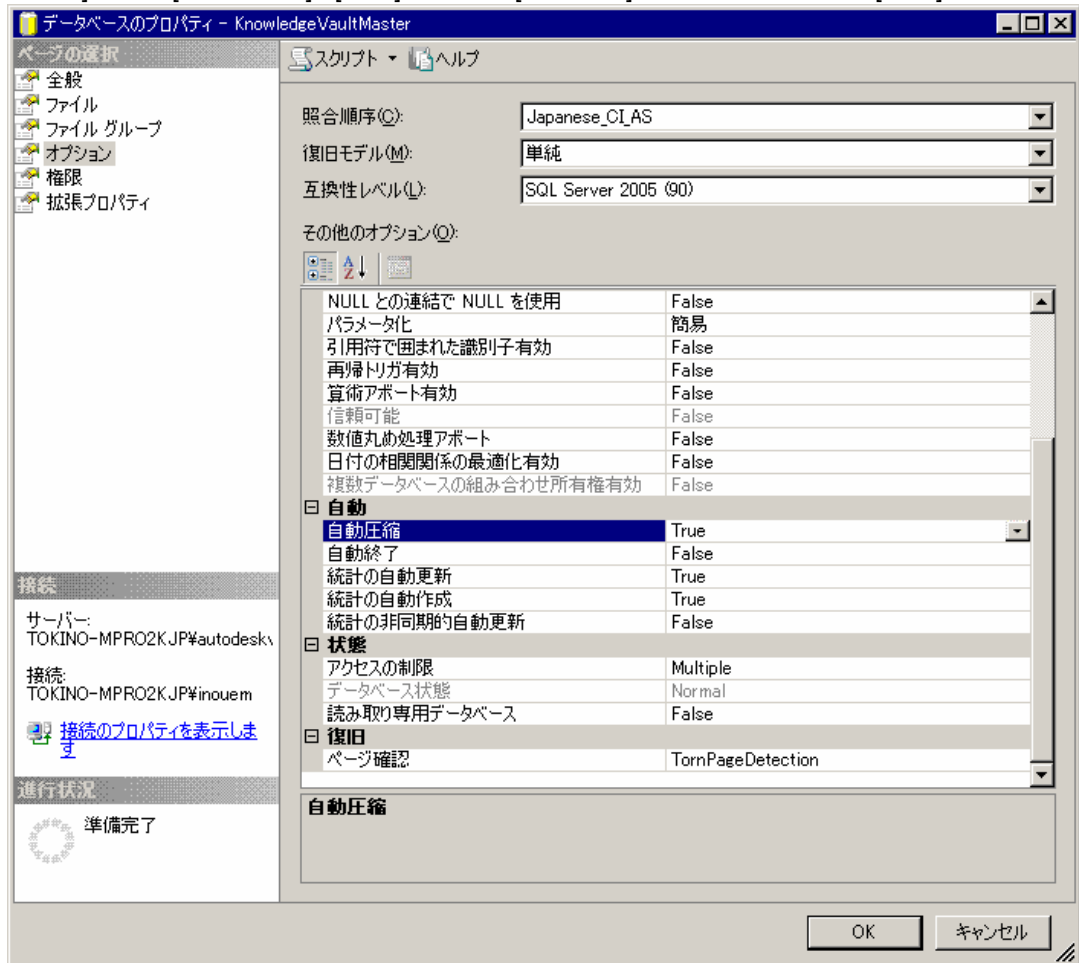
1. 作業を始める前に、Vault Manager を使用してボールのバックアップが作成されていることを確認します。
2. すべてのユーザがボールト サーバからログアウトしていることを確認してください。
3. コントロール パネルから、[管理ツール]をダブルクリックし、[サービス]アイコンをダブルクリックします。
4. SQL Server Agent (AUTODESKVAULT)サービスを探します。
5. SQL Server Agent (AUTODESKVAULT)を右クリックし、[プロパティ]を選択します。
6. [スタートアップの種類]を[自動]に変更し、サービスを開始します。



7. Microsoft SQL Server Management Studio を開き、AutodeskVault インスタンスに接続します。
8. KnowledgeVaultMaster データベースを右クリックし、[プロパティ]を選択します。

## アドバンス コンフィギュレーション ガイド

9. [オプション]タブで、[復旧モデル]を[単純]に変更し、[自動圧縮]ドロップダウン リストを[True]に変更しま

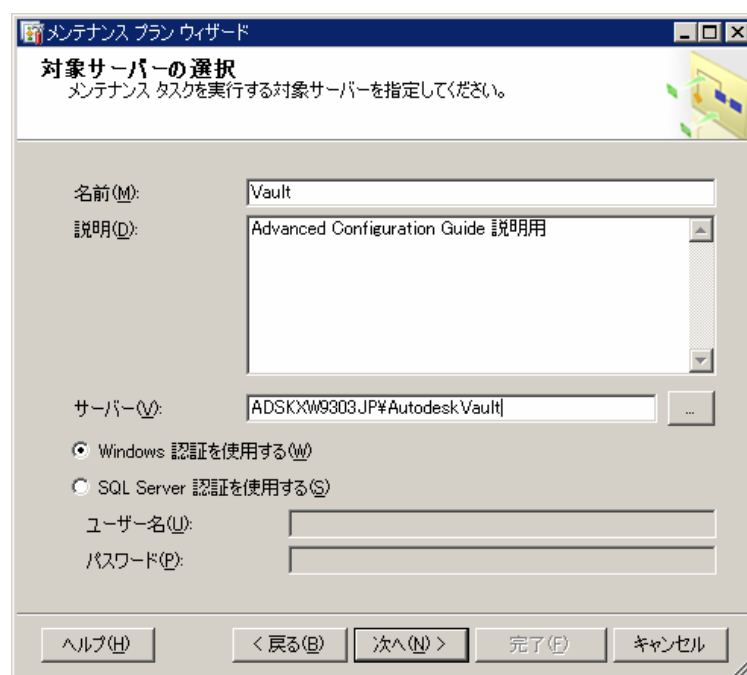


す。

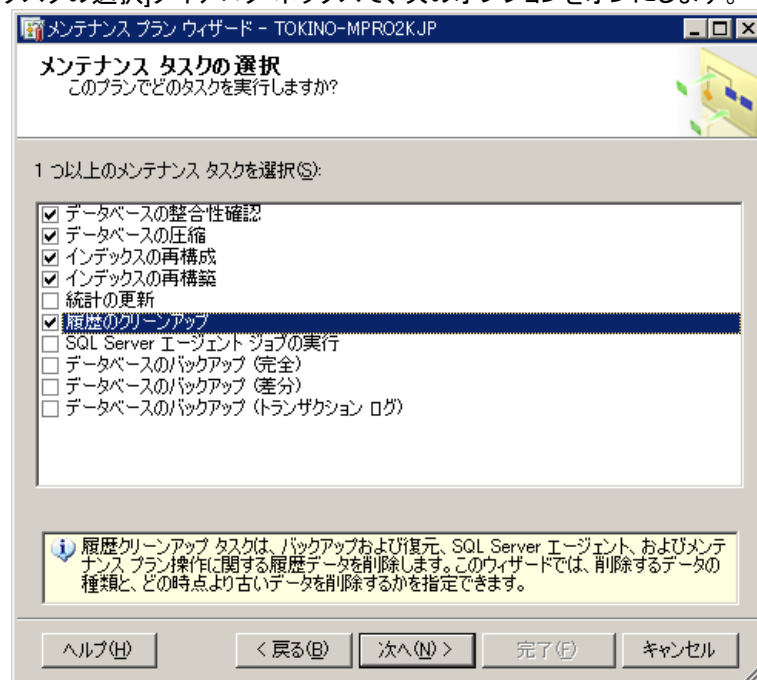
10. すべての Vault データベースについて、上記の同じ手順を実行します。
11. [管理]フォルダを展開し、[メンテナンス プラン]フォルダを選択します。
12. [メンテナンス プラン]フォルダを右クリックし、[メンテナンス プラン ウィザード]を選択します。



13. [対象サーバーの選択]ダイアログ ボックスで、サーバとログイン情報を設定します。

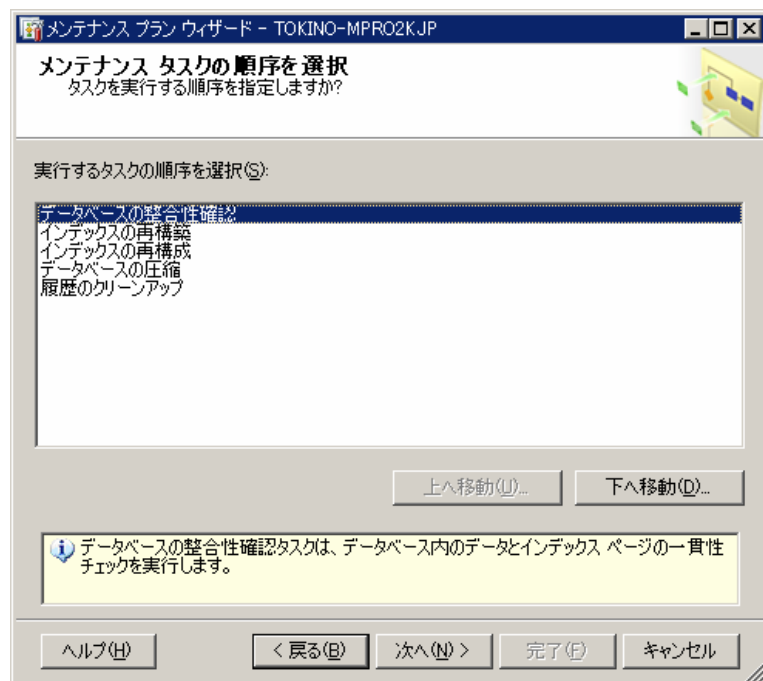


14. [メンテナンス タスクの選択]ダイアログ ボックスで、次のオプションをオンにします。

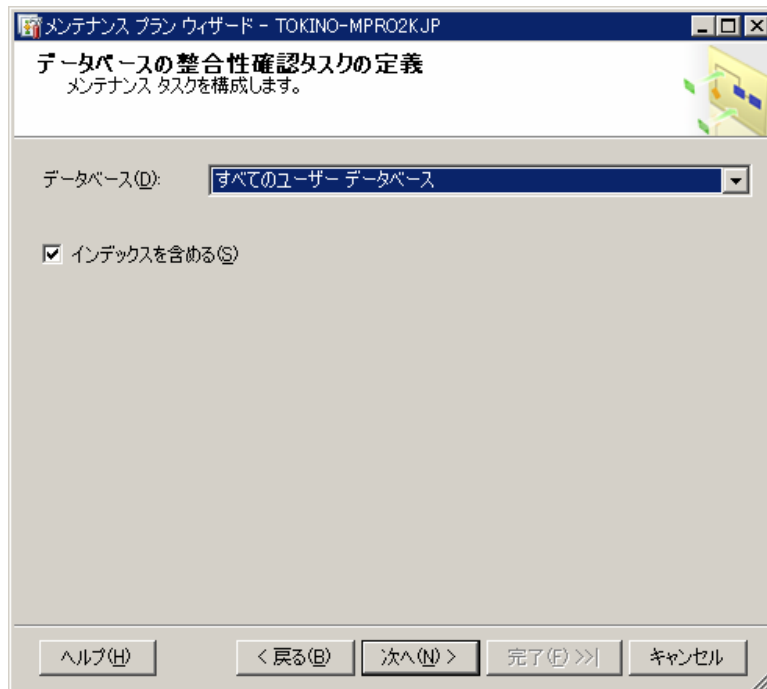




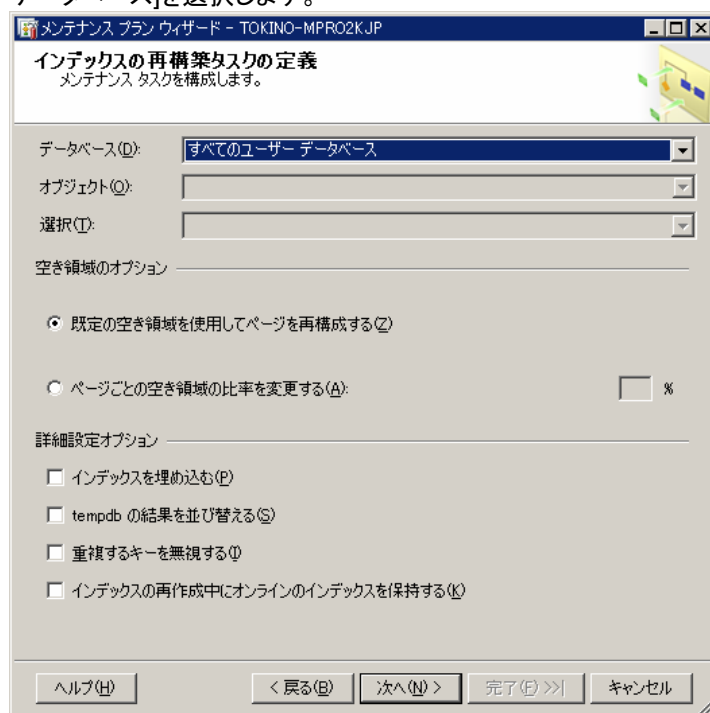
15. [メンテナンス タスクの順序を選択]ダイアログ ボックスで、順番を次のように設定します。



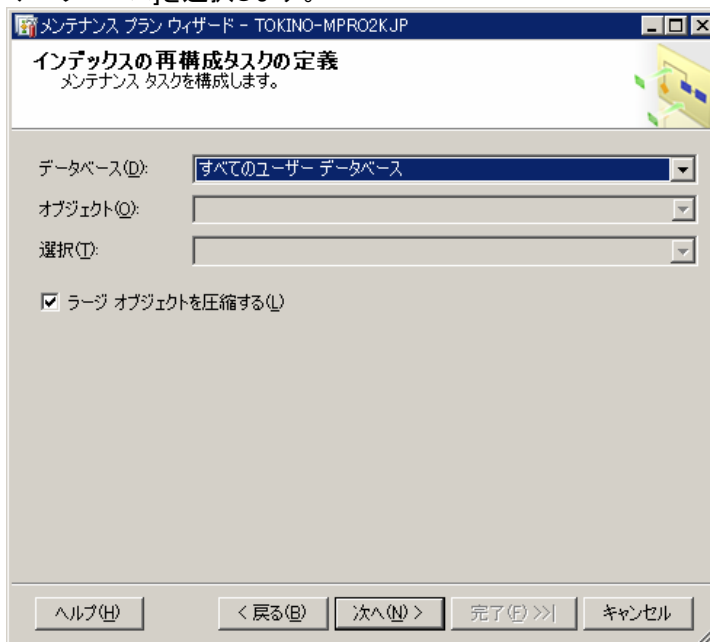
16. [データベースの整合性確認タスクの定義]ダイアログ ボックスで、[データベース]ドロップダウン リストから[すべてのユーザー データベース]を選択し、[インデックスを含める]の横にあるチェックボックスをオンにします。



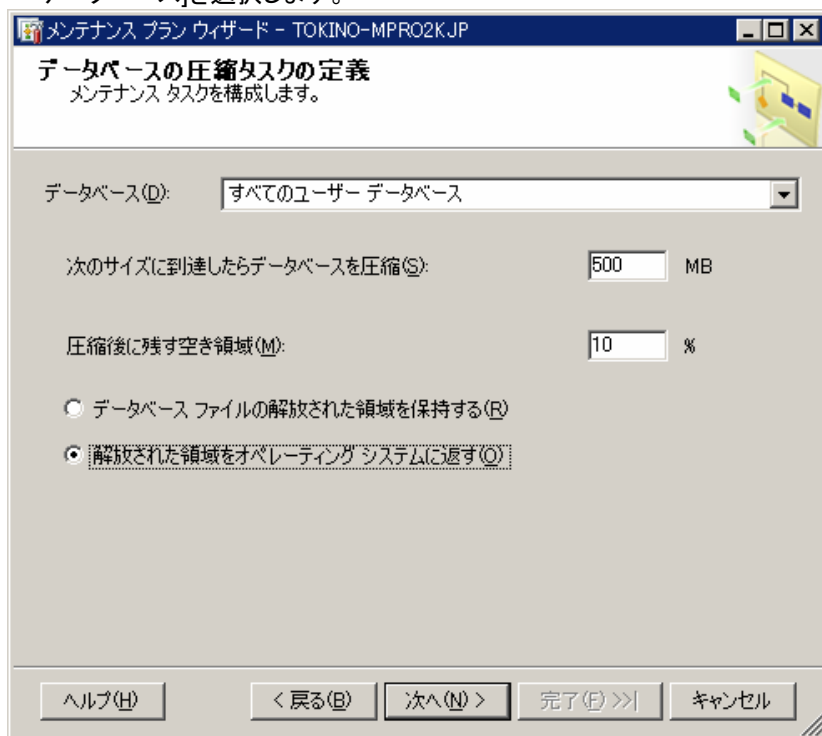
17. [インデックスの再構築タスクの定義]ダイアログ ボックスで、[データベース]ドロップダウン リストから[すべてのユーザー データベース]を選択します。



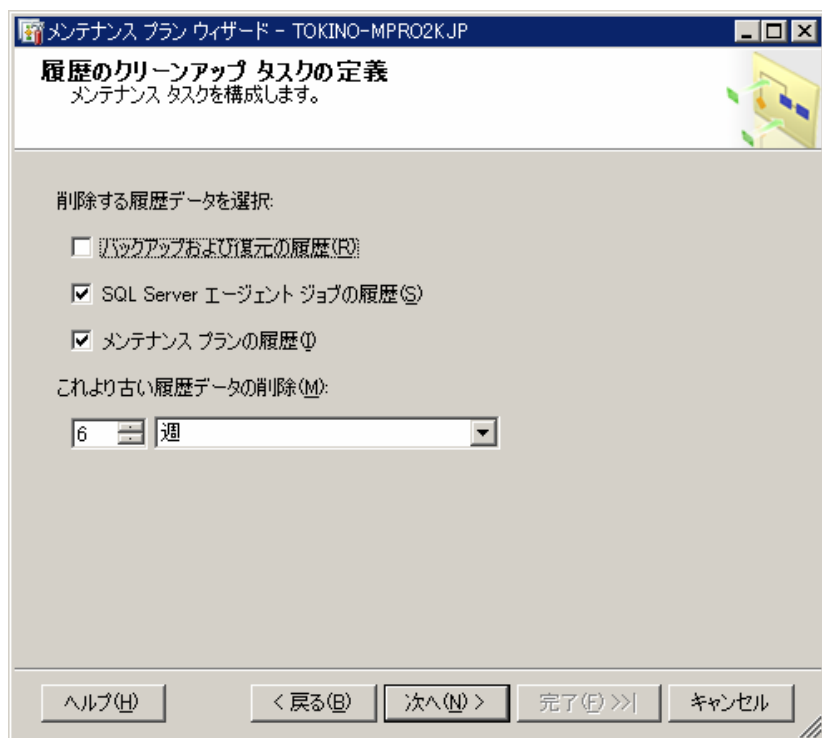
18. [インデックスの再構成タスクの定義]ダイアログ ボックスで、[データベース]ドロップダウン リストから[すべてのユーザー データベース]を選択します。



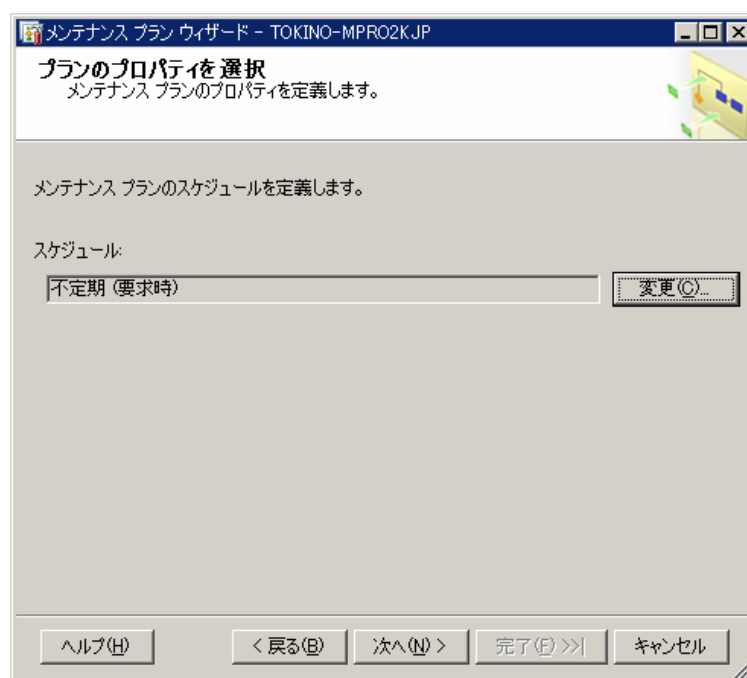
19. [データベースの圧縮タスクの定義]ダイアログ ボックスで、[データベース]ドロップダウン リストから[すべてのユーザー データベース]を選択します。



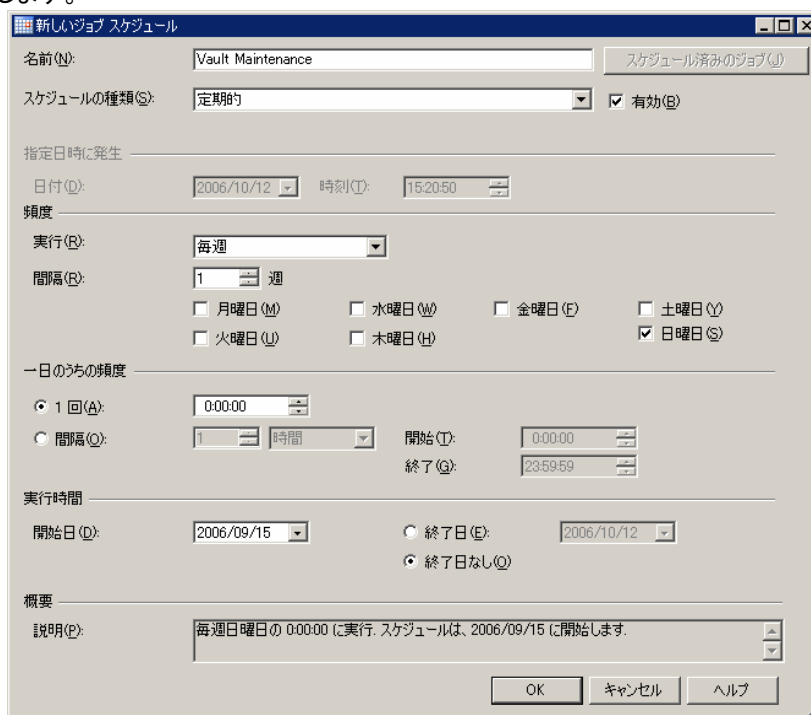
20. [履歴のクリーンアップ タスクの定義]ダイアログ ボックスで、必要に応じてクリーンアップ オプションを選択します。



21. [プランのプロパティを選択]ダイアログ ボックスで、[変更]をクリックします。



22. [新規ジョブ スケジュール]ダイアログ ボックスで、Vault Manager のバックアップの完了後に実行するプランを設定します。



23. [レポート オプションの選択]ダイアログ ボックスで、メンテナンス レポートの場所を指定します。

24. [次へ]をクリックし、[完了]をクリックします。

## ポールトに追加されるファイルの最大ファイル サイズ制限を増やす方法

Autodesk Vault および Autodesk Productstream 5 では、ポールトに追加できる最大ファイル サイズが既定値で 50MB に設定されています。最大ファイル サイズを変更するためには 2 つの設定を変更する必要があります。1 つは Autodesk Data Management Server での設定で、もう 1 つは Vault または Productstream クライアントでの設定です。

Autodesk Data Management Server で、次の手順を実行します。

1. <インストール パス>¥Server¥Web¥Services フォルダで、ファイル web.config を探します。Autodesk Vault 5 の既定値のインストール パスは C:¥Program Files¥Autodesk¥Data Management Server 5 です。
2. web.config のバックアップ コピーを作成します。
3. ファイルを変更するには、メモ帳などの ASCII テキスト エディタを使用して web.config を開きます。
4. 文字列 maxRequestLength を探します。  
maxRequestLength に割り当てられている既定値は 51200 です。この値は現在の最大ファイル サイズ制限を表しています。新しい値を指定します。  
**注:** web.config ファイルには maxRequestLength 文字列のインスタンスが 2 つあります。これらの値を両方とも変更してください。
5. ファイルを保存します。
6. コマンド プロンプトを開き、IIS を停止するために IISRESET /STOP と入力します。
7. 再度 IIS を起動するために、IISRESET /START と入力します。

Vault Client で、次の手順を実行します。

1. Vault Explorer が実行されていないことを確認します。
2. <インストール パス>¥Vault 5¥Explorer フォルダで、ファイル Connectivity.Vault.exe.config を探します。Autodesk Vault 5 の既定値のインストール パスは、C:¥Program Files¥Autodesk¥Vault 5 です。
3. Connectivity.Vault.exe.config のバックアップ コピーを作成します。
4. ファイルを変更するには、メモ帳などの ASCII テキスト エディタを使用して Connectivity.Vault.exe.config を開きます。
5. 文字列 maxRequestLength を探します。  
maxRequestLength に割り当てられている値は 51200 です。この値は現在の最大ファイル サイズ制限を表しています。新しい値を指定します。
6. ファイルを保存します。

Productstream Client で、次の手順を実行します。

1. Productstream が実行されていないことを確認します。
2. <インストール パス>¥Productstream 5¥Explorer フォルダで、ファイル Connectivity.Product.exe.config を探します。Autodesk Productstream 5 の既定値のインストール パスは、C:¥Program Files¥Autodesk¥Productstream 5 です。
3. Connectivity.Product.exe.config のバックアップ コピーを作成します。
4. ファイルを変更するには、メモ帳などの ASCII テキスト エディタを使用して Connectivity.Product.exe.config を開きます。
5. 文字列 maxRequestLength を探します。  
maxRequestLength に割り当てられている値は 51200 です。この値は現在の最大ファイル サイズ制限を表しています。新しい値を指定します。
6. ファイルを保存します。

## ADMS サーバでのタイムアウト値を増やす方法

ポールト データベースのサイズが増えると、サーバで処理できるデータ量を増やすため、サーバでのタイムアウト値を変更しなければならない可能性が生じます。

クライアントおよびサーバの機能のタイムアウト値を増やすには、次の手順を実行します。

1. Windows エクスプローラを開き、C:\Program Files\Autodesk\Data Management Server 5\Server\Web\Services ディレクトリに移動します。
2. Web.config のバックアップ コピーを作成します。
3. メモ帳で Web.config ファイルを開き、次の各行を探します。  
<defaultSqlTimeoutSecs value="100" />  
<longSqlTimeoutSecs value="120" />  
“defaultSqlTimeoutSecs value” の値を "900" に変更します  
“longSqlTimeoutSecs value” の値を "1020"に変更します  
**注:** これらの値は、ポールトのサイズや、ポールトがインストールされているサーバの処理速度によって異なり、より大きな値が必要になる場合があります。
4. Web.config ファイルを保存します。
5. コマンド プロンプトを開き、IIS を停止するために IISRESET /STOP と入力します。
6. 再度 IIS を起動するために、IISRESET /START と入力します。

Vault Manager の機能のタイムアウト値を増やすには、次の手順を実行します。

1. すべてのポールト ユーザがポールトからログアウトしていることを確認します。
2. Windows エクスプローラを開き、C:\Program Files\Autodesk\Data Management Server 5\Vault Manager ディレクトリに移動します。
3. Connectivity.VaultManager.exe.Config のバックアップ コピーを作成します。
4. メモ帳で Connectivity.VaultManager.exe.Config ファイルを開き、次の各行を探します。  
<defaultSqlTimeoutSecs value="100" />  
<longSqlTimeoutSecs value="120" />  
“defaultSqlTimeoutSecs value” の値を "900" に変更します  
“longSqlTimeoutSecs value” の値を "1020" に変更します  
**注:** これらの値は、ポールトのサイズや、ポールトがインストールされているサーバの処理速度によって異なり、より大きな値が必要になる場合があります。
5. Connectivity.VaultManager.exe.Config を保存します。
6. コマンド プロンプトを開き、IIS を停止するために IISRESET /STOP と入力します。
7. 再度 IIS を起動するために、IISRESET /START と入力します。

## SSL を使用した Autodesk Data Management Server の実行

SSL (Secure Socket Layer)を使用するように Autodesk Data Management Server をセットアップするには、2つの手順を実行します。

- DM Server マシンで証明書をインストールし、Web サイトの SSL 設定をセットアップします。
- クライアントが SSL を使用して正常に通信できることを確認します。

### DM Server マシンの設定

IIS のもとで SSL をセットアップする方法についてはこのドキュメントでは説明しません。詳細については、次の Web リソースを参照してください。現在使用している Windows のバージョンによっては、一部の手順が異なる場合があります。

- Obtaining Server Certificates (サーバー証明書の取得) -  
<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/86120d58-f2c2-4a1b-8b70-8bee6a5227981033.mspx?pf=true>  
\* 証明書を作成する際は、Web サイトの共通名を指定する必要があります。Vault をインターネットからアクセス可能にする場合は、共通名として完全修飾ドメイン名 (FQDN)を使用します(例: vault.abccorp.com)。組織内でのみ接続する場合は、共通名として DM サーバのコンピュータ名を使用できます。
- Installing the Server Certificate (サーバー証明書のインストール) -  
<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/36d88d14-7dad-4168-a342-58aee9b536021033.mspx?pf=true>

既定値では、ADMS インストーラによって、AutodeskDM 仮想ディレクトリが SSL を必要とするように設定されることはありません。証明書が既定値の Web サイトにインストールされると、ユーザはセキュリティ保護された接続とセキュリティ保護されない接続のどちらを使用しても、Autodesk Data Management Server にログインできるようになります。

セキュリティ保護されないログインを行うには、ログイン ダイアログ ボックスのサーバ フィールドで、localhost、127.0.0.1、マシン名または IP アドレスを使用します。

セキュリティ保護されたログインでは、証明書が発行された共通名を使用する必要があります。

Productstream Explorer (Webclient)がサーバにインストールされている場合、クライアントから Productstream Explorer にアクセスするには、各クライアントの Web ブラウザから <https://servername/AutodeskDM/Webclient> を使用してアクセスする必要があります。

## SSL アクセスを必要とするように AutodeskDM 仮想ディレクトリを設定する

注: 次の手順では、インターネット インフォメーション サービス マネージャを使用して、SSL アクセスを必要とするように AutodeskDM 仮想ディレクトリを設定します。

1. Data Management Server をホストしているコンピュータに、ローカル管理者またはドメイン管理者としてログインします。
2. [スタート]メニューから、[設定] > [コントロール パネル]を選択します。
3. [管理ツール]をダブルクリックし、[インターネット インフォメーション サービス]をダブルクリックします。
4. サーバ名の下にある[Web サイト]をクリックします。
5. [既定の Web サイト]を選択して展開します。この Web サイトには、作成した証明書がインストールされている必要があります。
6. AutodeskDM 仮想ディレクトリを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
7. [ディレクトリ セキュリティ]タブを選択します。
8. [セキュリティで保護された通信]で、[編集]をクリックします。

注: [証明書の表示]ボタンが使用できない場合は、作成した証明書が AutodeskDM 仮想ディレクトリの親 Web サイトにまだインストールされていません。証明書をインストールしてから、残りの手順を実行してください。

9. [セキュリティで保護されたチャネル (SSL)]をクリックします。これで、このディレクトリを参照するクライアントは HTTPS を使用しなければなりません。
10. [OK]をクリックします。
11. [OK]をクリックします。
12. [継承/優先]ダイアログ ボックスが表示された場合は、[すべて選択]をクリックし、[OK]をクリックします。新しいセキュリティ 設定が、AutodeskDM 仮想ディレクトリのすべてのサブディレクトリに適用されます。
13. インターネット インフォメーション サービス コンソールを閉じます。

## クライアント マシンの設定

SSL クライアント/サーバ通信が正しくセットアップされていることを確認するには、Internet Explorer を開き、<https://<サーバ名>> を参照します。接続が機能しない場合は、[セキュリティの警告]ダイアログ ボックスが表示されます。



[セキュリティの警告]ダイアログ ボックスで次の警告が 1 つ以上表示された場合は、以降の解決策を実行してください。



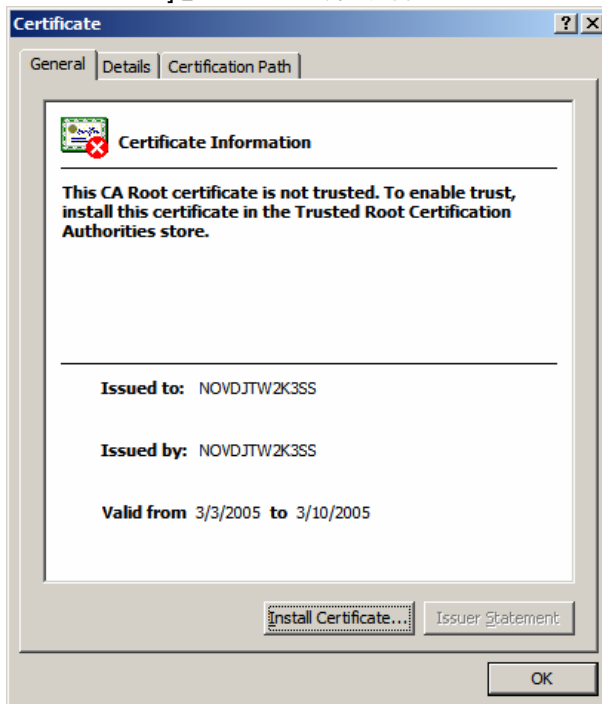
1. 証明書が、信頼された証明機関からのものではない。
2. 証明書の日付が無効である。
3. 証明書の名前とサイトの名前が一致しない。

**解決策 1 - CA ルート証明書を、クライアント マシン上の信頼されたルート証明機関ストアに追加する**

1. Internet Explorer ウィンドウを開き、<https://machineName> を参照します。
2. [セキュリティの警告]ダイアログ ボックスで、[証明書の表示]をクリックします。

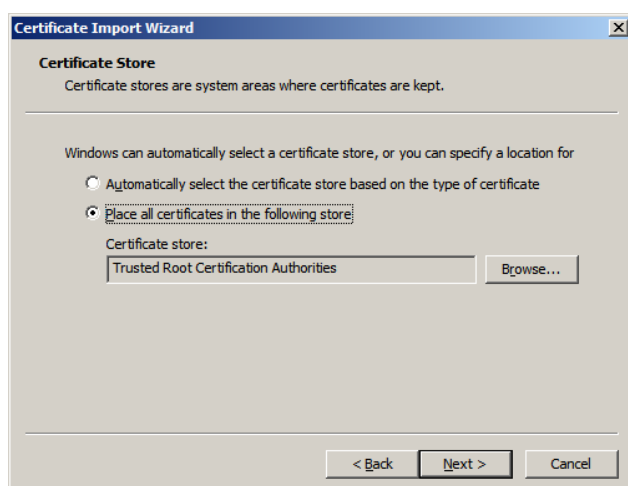


3. [証明書]ダイアログ ボックスに、警告の説明が表示されます。この発行元が信頼できる場合は、[証明書のインストール]をクリックして、証明書のインポート ウィザードを起動します。

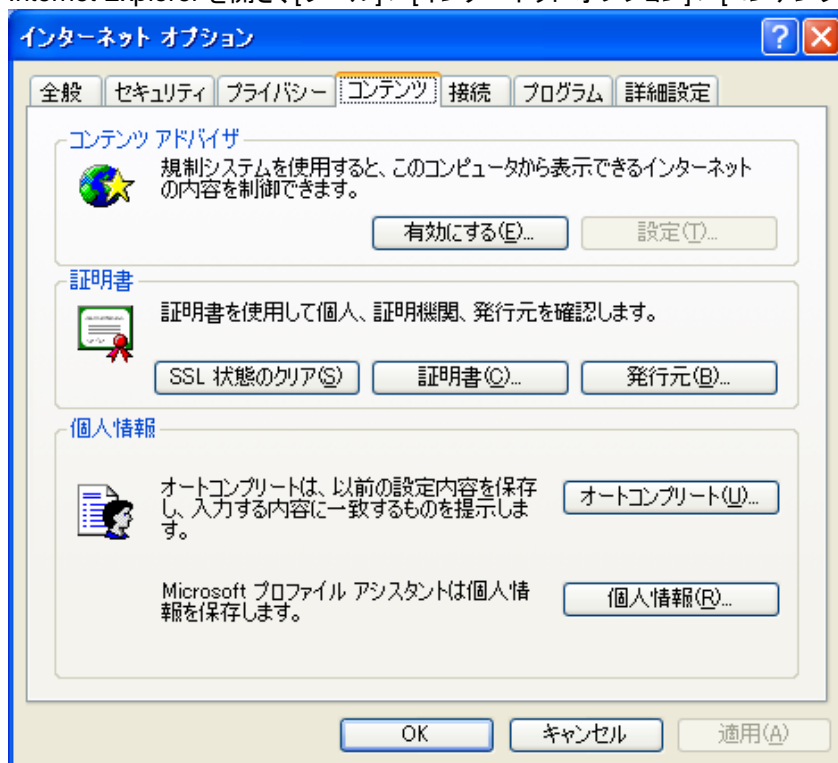


4. 証明書のインポート ウィザードで、[次へ]をクリックします。[証明書をすべて次のストアに配置する]をクリックし、[参照]をクリックして、[信頼されたルート証明機関]ノードを探します。

## アドバンス コンフィギュレーション ガイド



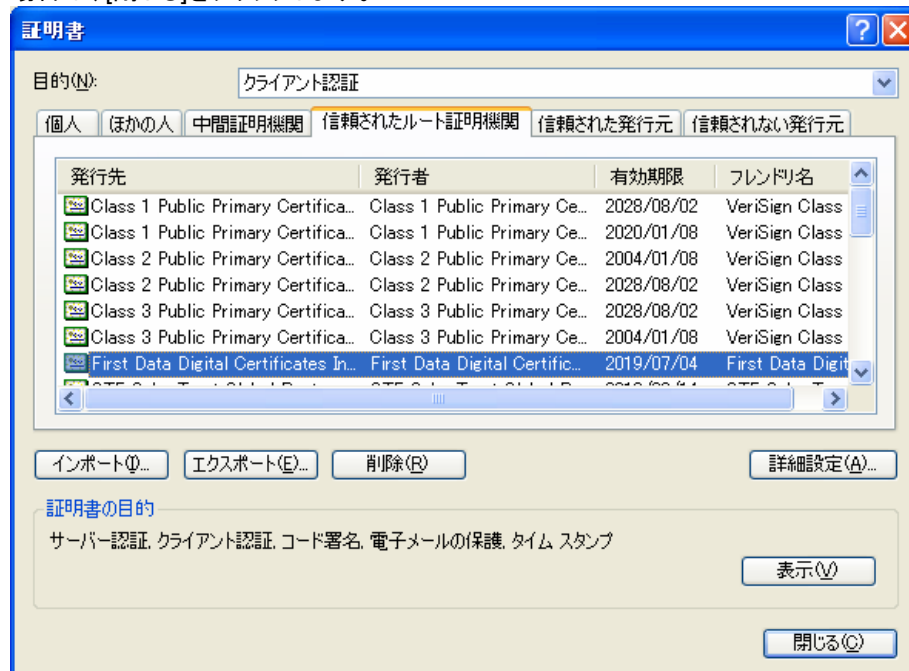
5. [次へ]をクリックし、[完了]をクリックします。
6. 証明書が正常にインポートされたことを示すダイアログ ボックスが表示されます。[OK]をクリックします。
7. Internet Explorer を開き、[ツール] > [インターネット オプション] > [コンテンツ]タブに移動します。



8. [証明書]をクリックします。

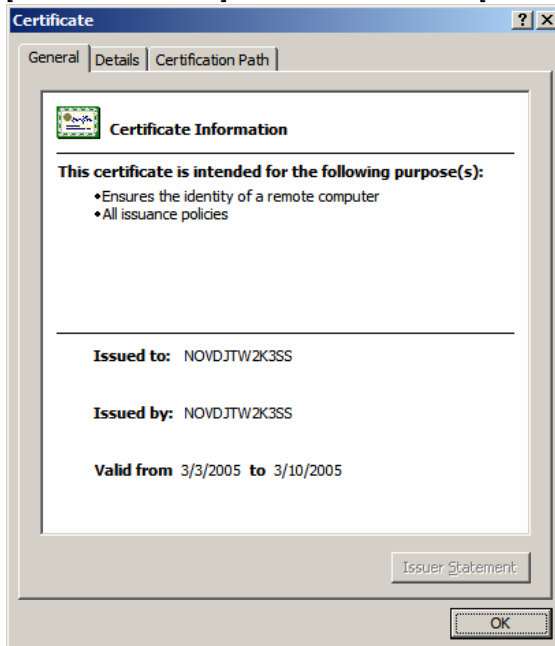
## アドバンス コンフィギュレーション ガイド

9. [信頼されたルート証明機関]タブを選択し、サーバに発行された証明書を探します。証明書が見つかった場合は、[閉じる]をクリックします。



## 解決策 2 - 証明書の有効期限を調べる

1. [セキュリティの警告]ダイアログ ボックスで、[証明書の表示]をクリックします。



2. 有効期間の日付範囲が期限切れになっている場合、またはまだ有効ではない場合は、IT 部署に連絡して、証明書の期限が切れており、新しい証明書を証明機関に要求してインストールする必要があることを、Web サーバ管理者に知らせてください。

## 解決策 3 - 証明書名とサイト名が一致することを確認する

1. DM Server に対して発行された正確な証明書名を Web サーバ管理者に問い合わせてください。新しく提供された名前を、<https://newServerName> を使用して再度試します。[セキュリティの警告]メッセージボックスが表示されない場合は、セキュリティ保護された方法で DM Server にログインするときに、VE クライアント アプリケーションのログインで新しい名前を使用してください。

クライアントの Web サービス要求/応答が、サーバとの間で明確にやり取りされていることが確認されれば、SSL を使用してクライアント アプリケーションからログインできます。

## SSL を使用したクライアント アプリケーションからのログイン

1. [ログイン]ダイアログ ボックスで、ユーザ名、パスワード、およびデータベースの名前を入力します。
2. サーバの名前では、<https://> という接頭辞を付けて、サーバのマシン名を指定します。たとえば、次のようになります。
  - 既定値の SSL ポート 443 を使用する場合: <https://> ServerName
  - 別の SSL ポートを使用する場合: <https://> ServerName:XXX (XXX には SSL 通信ポート番号が入ります)

**注:** セキュリティ保護されたログインは、サーバマシンに発行された証明書に依存します。マシン名に対して発行されている場合は、<https://ServerName> のみ機能します。証明書がマシン名ではなく専用の IP に対して発行されている場合は、<https://serverIPAddress> のみがセキュリティ保護されたボールド ログインとして機能します。

## プロキシ サーバでのボールの使用

このセクションでは、Autodesk Client および Server 間の正常なデータ通信を可能にするためのプロキシのセットアップについて説明します。

クライアント マシンからプロキシ サーバを経由してWebサーバに接続した場合、Autodesk クライアントからの Autodesk Data Management Server の呼び出しはすべて失敗します。Autodesk Client および Server 間の正常な通信を行うためには、プロキシ サーバをバイパスする必要があります。

### Internet Explorer 6.x でのプロキシ設定の変更

1. Internet Explorer を開きます。
2. [ツール]メニューから、[インターネット オプション]を選択します。
3. [接続]タブを選択します。
4. [LAN の設定]をクリックします。
5. [LAN にプロキシ サーバを使用する]チェック ボックスがオンになっている場合は、[ローカル アドレスにはプロキシ サーバを使用しない]チェック ボックスをオンにします。
6. [ポート]フィールドの横にある[詳細設定]ボタンをクリックします。
7. [プロキシの設定]ダイアログ ボックスで、サーバ名と IP アドレスを[例外]フィールドに追加します。
8. [OK]をクリックします。
9. [OK]をクリックします。
10. [OK]をクリックして[インターネット オプション]を閉じます。

ピリオドのないアドレス(<http://webserver> など)はすべて、プロキシをバイパスし、直接解決されます。

Internet Explorer で引き続き、割り当てられた HTTP プロキシ サーバに接続する場合、HTTP プロキシ アドレスにピリオドが含まれる可能性があります。その場合は、ホスト名を使用するようにプロキシ サーバを設定してください。

### ホスト名を使用するようにプロキシ サーバを設定する

1. 前述の、Internet Explorer でのプロキシ設定の変更に示した手順 1 ～ 5 を実行します。
2. [アドレス]フィールドが “<http://webserver.domainname.com>” または “<http://10.0.0.1>” になっている場合は、“<http://webserver>” のみに変更します。
3. [OK]をクリックして[インターネット オプション]を閉じます。

高度なプロキシ バイパス設定については、次を参照してください。

- Microsoft サポート技術情報の記事 262981: [「ローカル アドレスにはプロキシ サーバを使用しない」オプションがオンでも、ローカル\(イントラネット\)の IP アドレスとして Internet Explorer でプロキシ サーバを使用する](#)
- Microsoft の関連ドキュメント “[Working with Proxy Servers](#)” (プロキシ サーバでの作業)  
[http://www.microsoft.com/resources/documentation/Windows/2000/server/reskit/en-us/ierk/Ch13\\_d.asp](http://www.microsoft.com/resources/documentation/Windows/2000/server/reskit/en-us/ierk/Ch13_d.asp)

## Autodesk Data Management Server のログ ファイル

このセクションでは、Autodesk Vault または Autodesk Productstream に関する潜在的な問題のトラブルシューティングを行う際に使用する、各種のログ ファイルやその他のファイルについて、それらの存在する場所を示します。

このセクションでは、説明の中で %temp% というフォルダを参照しています。これは、コンピュータにログインしている Windows ユーザ アカウントに対して定義されている一時フォルダの場所です。既定値では、このフォルダは次の場所にあります。

C:\Documents and Settings\ACCOUNTNAME\Local Settings\Temp

この例で、ACCOUNTNAME は Windows のユーザ アカウント名です。

## Autodesk Data Management Server (ADMS) 5 のインストール ログ ファイル

ADMS のインストール中に、診断ツールによって、またはインストールそれ自体の処理によって、エラーが報告されることがあります。これらのエラーはログ ファイルに記録されます。

フォルダの場所とファイル名:

%temp%\EDMLog

*PreChecks.xml*

*PreChecks.xml*

*DiagTool.xml*

*DiagToolLog.xml*

注: PS、Server、Vault という名前の 3 つのサブフォルダにもログがあります。これらのログもまた、ADMS 5 のインストールに関する問題のトラブルシューティングを行う際に役立ちます。

## Vault サーバのログ ファイル

この場所にあるログ ファイルのうち、主に 2 つの異なるログ ファイルについて調べます。ここではこれらのログ ファイルについてそれぞれ詳しく説明します。

フォルダの場所とファイル名:

C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Autodesk\VaultServer\FileStore

*Vlog-YYYYMMDD.txt*

Vault Explorer、またはサポート対象製品アドインの中から実行される、[チェックイン]、[チェックアウト]、[最新バージョンを取得]、[チェックアウトを取り消し]、[高度な検索]などの操作に関するサーバ側の問題はすべて、これらのログ ファイルに書き込まれます。

*VaultManagerLog-YYYYMMDD.txt*

Vault Manager の中で実行される、バックアップ、復元、インデックス再作成、ページなどの操作に関するサーバ側の問題はすべて、これらのログ ファイルに書き込まれます。

## Microsoft SQL Server のログ ファイル

フォルダの場所とファイル名:

C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL\$AUTODESKVAULT\LOG

*Errorlog*

*Errorlog.1*

*Errorlog.2*

*Errorlog.3*

SQL のログは、最新のファイルが *errorlog* という名前で、以下順に *errorlog.1*、*errorlog.2* というように名前が付けられます。

## DWG および DWF の iFilter のログ ファイル

インデックス再作成などの一部の Vault 操作を実行する際に使用される各種の iFilter について、それらによって管理されているログ ファイルがあります。これらのログ ファイルは、Vault Explorer で想定されているようなインデックスが作成されないブロック属性またはプロパティに関して、問題のトラブルシューティングを行う際に、役立てることができます。

フォルダの場所とファイル名:

C:\Documents and Settings\ComputerName\ASPNET\Local Settings\Temp

*DWFFilt.\*.log*

*DWGFilt.\*.log*

## インデックス作成ブロック属性(DWG ファイル)

ボールドにインデックスを作成しない DWG ブロック属性に関して、問題のトラブルシューティングを行う際は、FilterConfig.xml も必要になります。このファイルは Vault Manager でブロック属性のインデックスを作成するときに作成されるもので、次の場所にあります。

フォルダの場所とファイル名:

C:¥Program Files¥Autodesk¥Data Management Server 4¥Server¥Web¥Services

*FilterConfig.xml*